

総 説

相模湾・東京湾沿岸で記録されたハクジラ亜目 (マッコウクジラ科 *Physeteridae*, コマッコウ科 *Kogiidae*, アカボウクジラ科 *Ziphiidae*, ネズミイルカ科 *Phocoenidae*) について

鷲見みゆき・花上諒大・崎山直夫・鈴木 聡
石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創

Miyuki Sumi, Ryota Hanaue, Tadao Sakiyama, Satoshi Suzuki, Hajime Ishikawa,
Tadasu K. Yamada, Yuko Tajima, and Hajime Taru: Review of sighting,
stranding, and bycatch of Odontoceti (*Physeteridae*, *Kogiidae*,
Ziphiidae, and *Phocoenidae*) along the coasts
of Sagami and Tokyo Bays

Abstract. Along the coasts of Sagami and Tokyo Bays in Japan, numerous whale sightings, strandings, and bycatches have been recorded. However, these records are widely distributed across various databases, journals, reports, and articles. As part of our survey on the distribution of Cetaceans belonging to four families of Odontoceti (*Physeteridae*, *Kogiidae*, *Ziphiidae*, *Phocoenidae*) in the adjacent waters of Japan, we reviewed reports originating from Sagami and Tokyo Bays between 1927 and 2021. This review undertakes the compilation of all cetacean species in Sagami and Tokyo Bays. We confirmed 185 records pertaining to the following 10 species of Odontoceti: *Physeter macrocephalus*, *Kogia breviceps*, *K. sima*, *Berardius bairdii*, *Mesoplodon carlhubbsi*, *M. ginkgodens*, *Ziphius cavirostris*, *Neophocaena asiaeorientalis*, *Phocoena phocoena*, and *Phocoenoides dalli*. In this review, we summarize these records by species as a reference for further investigation. Our compilation confirms the presence of 35 species belonging to 26 genera in 8 families (79.5 %) in Sagami and Tokyo Bay, s out of the 44 species belonging to 27 genera in 9 families of the order Cetacea in the seas around Japan.

緒 言

日本沿岸の鯨類の記録は、国立科学博物館の「海棲哺乳類ストランディングデータベース (online)」や、日本鯨類研究所の「鯨研通信」ならびに「鯨類のストランディング (座礁・漂着・漂流・迷入)・定置網混獲—ストランディングした鯨について (online)」, 下関海洋アカデミー鯨類研究室 (2020 年 3 月閉鎖) の「下関鯨類研究室報告 (No. 1–7)」により確認することができる。相模湾における鯨類の出現記録は、これらのデータベースや文献に掲載されているだけでなく、断片的な情報や目録としても発表されている (鴨川シーワールド, 1992; 山田・磯貝, 1992; 中村ほか, 1994; Terasawa *et al.*, 1997; 樽, 2006, 2011; 崎山ほか, 2011; Ohkubo *et al.*, 2011; 三井ほか,

2014; Suzuki *et al.*, 2015; 樽ほか, 2018; 崎山ほか, 2019; 田島, 2019; 加登岡ほか, 2020; 花上ほか, 2021)。

本報告では、加登岡ほか (2020), 花上ほか (2021) に続き、相模湾とその奥に位置する東京湾で記録された鯨類について、これまでの報告を集計するとともに、新たな情報も加えたりリストを作成し、同湾に出現する鯨類を調査する上での基礎資料とすることとした。今回は日本近海に生息するハクジラ亜目のうち、花上ほか (2021) で報告したマイルカ科を除いたマッコウクジラ科 *Physeteridae*, コマッコウ科 *Kogiidae*, アカボウクジラ科 *Ziphiidae*, ネズミイルカ科 *Phocoenidae* についてまとめ、本報告により相模湾と東京湾沿岸の鯨類すべての種の集計を終えた。

材料と方法

相模湾と東京湾沿岸の鯨類の記録について、各データベースや既知報告（国立科学博物館，online；日本鯨類研究所，1988a, 1988b, 1989, 1991, 1994a, 1994b, 1995, 1996, 1997a, 1997b, 1998a, 1998b, 1998c, 1999, 2000, 2001, 2002a, 2002b, 2003a, 2003b, 2003c, 2004；日本鯨類研究所，online；鴨川シーワールド，1992；山田・磯貝，1992；中村ほか，1994；樽，2006；Ohkubo *et al.*, 2011；崎山ほか，2011；樽，2011；石川ほか，2013；石川，2014–2018；三井ほか，2014；Suzuki *et al.*, 2015；石川，2019a）と、著者らが漁業関係者から聞き取りによって収集した情報やメディア情報、漂着・混獲・漂流・迷入の現場へ赴き得た情報のうち、上記のデータベースに含まれないもの（未発表）を情報源とした（表1の出典を参照）。調査捕鯨や商業捕鯨など、上記以外の情報は含めていない。

本報告では、調査海域の区分を瀬能・松浦（2007）、佐藤（2017）を参考に、静岡県（伊豆半島石廊崎より東側）、神奈川県、東京都（東京23区に面する海域又は河川と伊豆大島より北側）、千葉県（南房総市野島崎より西側）沿岸とした。各海域で記録されたハクジラ亜目マッコウクジラ科、コマッコウ科、アカボウクジラ科、ネズミイルカ科の漂着、混獲、漂着、迷入、目視を生息の記録（以下、記録と表記）として扱った。この海域区分は、行政区画の区分よりも、地形などを考慮した形で区切られている。なお、種の学名はOhdachi *et al.* (2015)を基本とし、補足的にジェファソンほか（1993）に従った。

各記録の定義、表記ルール

本稿は加登岡ほか（2020）、花上ほか（2021）とともに相模湾・東京湾でこれまで記録された海生哺乳類のストランディングレコードについて集約している報告であるため、以下にあげる「各記録の定義」と「記録の表記ルール」については、加登岡ほか（2020）、花上ほか（2021）に従った。

各記録の定義は以下のとおりである。漂着：個体が海岸に流れ着いたもの。本報告では死体だけでなく生体が座礁した場合も含めた；混獲：主に定置網などの漁具へ入り込んだもの。ただし、漂流した死体が漁具に引っかかった場合は除く；漂流：死体が海上を漂っているもの；迷入：生体が港湾に迷い込んだもの；目視：生体が海上を遊泳している姿を目視で確認したもの。

記録の表記ルールは、以下のとおりである。表1の記録の分類は出典元に従った。本報告が新知見となる記録には事例番号に「*」を付した。日付と場所が近いものは同一個体を指している可能性がある。検討の上、同一個体と考えられるものは、同一記録として以下のように表1に記載した：場所は詳細な地名が記されている記録を選択した。住所の表記は出典元に従った；漂流から漂着など2つの情報がある時は、最初に記録された状況及び日付を記録として集計した；体長、体重の表記は出

典元に従った。出典元で記載が異なる際は、出典元で多数あったものを始めに記載し、異なる値は「/」で区切り、「※」表記をし、その後に出典元の番号を記載した（例：事例番号98 約5 m^{*1,27/5.5 m^{*33}}）。同時に複数個体が記録され、なおかつ複数個体について体長の記録がある場合は「,」で区切ってそれぞれ記載した。

各記録に記載されていた備考などの情報は省略したため、詳細については出典元を参照していただきたい。

結果

1927年9月から2021年9月までに、相模湾で131例、東京湾で54例の計185例のハクジラ亜目（マッコウクジラ科、コマッコウ科、アカボウクジラ科、ネズミイルカ科）の記録があった（表1）。これらのうち、記録された場所がおおむね特定できた131ヶ所を図1–7に示した（場所の特定ができなかった記録は表1の住所に▲を付した）。相模湾で記録された鯨類は以下のとおりである：マッコウクジラ *Physeter macrocephalus* : 34例；コマッコウ *Kogia breviceps* : 18例；オガワコマッコウ *K. sima* : 6例；ツチクジラ *Berardius bairdii* : 8例；ハッブスオウギハクジラ *Mesoplodon carlhubbsi* : 1例；イチョウハクジラ *M. ginkgodens* : 10例；アカボウクジラ *Ziphius cavirostris* : 31例；スナメリ *Neophocaena asiaeorientalis* : 15例；ネズミイルカ *Phocoena phocoena* : 4例；イシイルカ *Phocoenoides dalli* : 1例；その他種まで同定できなかったもの3例（コマッコウ属の未同定種 *Kogia* sp. : 1例；オウギハクジラ属の未同定種 *Mesoplodon* sp. : 1例；アカボウクジラ科の未同定種 *Ziphiidae* sp. : 1例），計4科7属10種が記録されていた。東京湾で記録されたのは、マッコウクジラ2例、コマッコウ3例、ハッブスオウギハクジラ1例、スナメリ46例、イシイルカ2例、計4科5属5種。両湾を合わせると計4科8属10種が記録されていた。

各種の記載

マッコウクジラ

Physeter macrocephalus Linnaeus, 1758

（図1：表1–4）

本種は国際自然保護連合（IUCN）レッドリストカテゴリーでは、危急種（Vulnerable species）に選定されている（IUCN, online）。最大のハクジラで、赤道周辺から極海（北極及および南極）まで、世界中の海洋に広く分布する（Rice, 1989）。日本近海では、太平洋岸沖に広く分布し、東シナ海、日本海、オホーツク海では稀である（Kasuya & Miyashita, 1988; Rice, 1989）。Mori *et al.* (2015) は、日本近海の本種の個体群は銚子沖（千葉県）から北海道にかけてとどまり越冬し、メスは夏にアリューシャン列島のアッツ島まで北上するとしている。

本種の記録は相模湾に34例、東京湾に2例、記録時

表 1. 相模湾・東京湾におけるハクジラ垂目の全記録（出典と注釈は表の末尾を参照。相模湾と東京湾にわけて示した。）

事例	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典
相模湾									
マッコウクジラ <i>Physeter macrocephalus</i>									
1	1959/7/26	神奈川県藤沢市片瀬西浜	生存→死亡(捕獲)	漂着	1	6 m	1850 kg	-	1, 25
2	1984/1/9	静岡県賀茂郡南伊豆町湊	-	漂着	1	4.75 m	-	オス	1, 25
3	1985/1/14	千葉県安房郡富山町(現南房総市)	死亡	漂着	1	11 m	-	メス	1, 25
4	1985/6/18	静岡県賀茂郡南伊豆町石廊崎	死亡	漂着	1	-	-	オス	1, 25
5	1992/5/25	千葉県安房郡白浜町(現南房総市)	-	漂着	1	13 m	-	-	1, 25
6	1994/4/12	神奈川県横須賀市長井町荒崎海岸	死亡	漂着	1	10 m	-	オス	1, 6, 25
7	1994/12/20	神奈川県小田原市沖約10 km▲	生存	目視情報	20	-	-	-	1, 25
8	1996/12/22	静岡県伊東市富戸城ヶ崎海岸	死亡	漂着	1	約15 m	-	オス	1, 10, 25
9	1997/10/18	神奈川県横須賀市佐島大楠漁協沖	死亡	漂流→漂着	1	13.08 m ^{※1,12}	-	オス	1, 12, 25
						13.1 m ^{※25}			
10	1997/10/25	千葉県館山市布良海岸	死亡	漂着	1	10 m	-	-	1, 12, 25
11	1997/12/2	千葉県館山市平砂浦海岸	死亡	漂着	1	9.8 m	-	-	1, 12, 25
12	1998/4/3	神奈川県小田原市沖約10 km▲	生存	目視情報	3	約11 m	-	メス3	1, 13, 25
13	1998/7/9	千葉県安房郡富浦町 大房岬沖約6 km(現南房総市)	生存	目視情報(船と衝突)	12	-	-	-	1, 14, 25
14	2000/3/15	東京都伊豆大島北東10 km▲	生存	目視情報	10	-	-	-	1, 29
15	2002/5/23	東京都大島町トウシキ沖▲	死亡	漂流	1	-	-	-	1, 19, 25
16	2003/2/18	静岡県熱海市曾我浦海岸	死亡	漂着	1	5.3 m	-	オス	1, 20, 25
17	2003/4/24	神奈川県藤沢市鵜沼海岸4地先	死亡	漂着	1	9.7 m	-	-	1, 20, 25
18	2003/6/4	神奈川県三浦市剣崎南東約17 km	生存	目視情報	7-8	約10 m	-	-	1, 21, 25
19	2003/6/4	神奈川県三浦市剣崎— 千葉県館山市洲崎	死亡	漂流	1	約10 m	-	-	1, 21, 25
20	2003/9/10	神奈川県横須賀市長井6-31 荒崎海岸	死亡	漂着	1	約4-5 m	-	-	1, 22, 25
21	2003/12/29	千葉県安房郡白浜町 野島崎灯台西(現南房総市)	死亡	漂着	1	17.6 m	-	オス	1, 23, 25
22	2005/3/31	神奈川県藤沢市江の島 南南西沖約13.3 km	死亡	漂流→漂着	1	12.45 m ^{※1,24} 12.5 m ^{※25}	-	オス	1, 24, 25
23	2006/1/24	東京都大島町岡田日の出浜	死亡	漂着	1	-	-	-	1, 25
24	2006/1/28	東京都大島町大島沖東14 km▲	生存	目視情報	30	-	-	-	1, 25
25	2007/9/8	千葉県富津市大貫海岸	生存→死亡	漂着	1	約4 m	-	-	1, 24, 25
26	2008/1/11	東京都大島町野増王の浜海岸	死亡	漂着	1	約8 m	-	オス	1, 25
27	2008/7/22	神奈川県三浦市剣崎南沖約10 km	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
28	2010/7/8	神奈川県足柄下郡真鶴町尻掛地先	生存→死亡	混獲(定置網)	1	9.7 m	-	メス	1, 25
29	2012/3/21	静岡県熱海市初島北西側海岸	死亡	漂着	1	-	-	-	1, 24, 25

表 1. 続き 1

事例	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典
マッコウクジラ <i>Physeter macrocephalus</i>									
30	2012/8/8	千葉県館山市沖▲	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
31	2014/5/6	静岡県下田市須崎1243地先	死亡	漂着	1	約5 m	-	-	1, 27
32	2016/2/6	静岡県伊豆大島北西13 km → 小田原市酒匂4	生存→死亡	目視情報 (高速船と衝突)→漂着	1	約15 m	-	-	1, 29
33	2017/3/21	静岡県賀茂郡東伊豆町稲取	死亡	漂着	1	-	-	-	30
34	2021/9/13	神奈川県小田原市前川	死亡	漂着	1	15.7 m	-	-	1
コマッコウ <i>Kogia breviceps</i>									
35	1963/8/17	神奈川県中郡大磯町	死亡	漂着	1	2.87 m	-	メス	1, 25, 34
36	1967/4/13	神奈川県平塚市海岸▲	-	-	1	1.8 m	-	オス	1, 25, 34
37	1975/7/8	神奈川県茅ヶ崎市海岸	生存→飼育	漂着	1	2.05 m	146 kg	オス	1, 15, 25
38	1978/8/25	神奈川県三浦市菊名海岸	生存→死亡1飼育1	漂着	2	2.8, 1.3 m	-	メス2	1, 25, 34
39	1986/3/19	千葉県安房郡富浦町砂浜 (現南房総市)	生存→飼育	漂着	1	2.14 m	165 kg	メス	1, 25
40	1991/4/24	神奈川県逗子市小坪 逗子マリーナ港内	死亡	漂着	1	2.45 m	-	メス	1, 5, 25, 34
41	1994/11/28	静岡県下田市白浜	生存→飼育	漂着	1	1.67 m	79 kg	メス	1, 8, 25
42	2001/12/15	千葉県館山市坂田	生存1死亡1→死亡2	マス・ストランディング	2	1.67, 1.92 m	-	メス1	1, 18, 25
43	2002/7/12	東京都大島町元町湯の浜	死亡	マス・ストランディング	2	3.08, 2.78 m	-	オス1、 メス1	1, 19, 25
44	2002/7/19	東京都大島町間伏砂の浜	生存→放流	マス・ストランディング	3	2.72, 2.12 m	-	オス1、 メス1	1, 19, 25
45	2004/8/18	神奈川県茅ヶ崎市柳島海岸	死亡	漂着	1	2.6 m	-	メス	1, 24, 25
46	2010/4/4	神奈川県横須賀市佐島天神島 臨海自然教育園笠島	死亡	漂着	1	約3.28 m	-	オス	1, 31, 37
47	2010/7/23	神奈川県藤沢市鵠沼海岸	生存→放流1飼育1	マス・ストランディング	2	2.65 m	292 kg	-	1
48	2011/7/13	千葉県館山市那古	生存→死亡1放流1	漂着	2	2.22 m	-	メス1	1, 24, 25
49	2013/4/25	千葉県館山市平砂海岸	生存→死亡	漂着	1	3.15 m	-	メス	1, 24, 26
50	2013/9/18	神奈川県平塚市高浜台33地先	死亡	漂着	1	2.3 m	-	オス	1, 26
51	2014/7/23	千葉県館山市見物	生存→放流→死亡	漂着	1	約2.5 m	-	-	1, 27
52	2021/8/19	神奈川県茅ヶ崎市東海岸南6 ヘッドランド江の島側	死亡	漂着	1	3.11 m	-	オス	1
オガワコマッコウ <i>Kogia sima</i>									
53	1999/3/30	神奈川県鎌倉市材木座海岸	生存→放流	漂着	1	2.2 m	推定130 kg	メス	1, 15, 25
54	2004/9/11	千葉県安房郡富山町高崎地先 (現南房総市)	生存→死亡	漂着	1	2.3 m	250 kg	-	1, 24, 25
55	2010/7/23	神奈川県藤沢市鵠沼海岸1	生存→放流1飼育1	マス・ストランディング	2	2.55, 2.65 m	-	オス	1, 24, 25

表 1. 続き 2

事例	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典
オガワコッコウ <i>Kogia sima</i>									
56	2011/3/26	神奈川県小田原市東町酒匂川河口	死亡	漂着	1	1.6 m	約100 kg	-	1, 24, 25, 39
57	2011/6/30	神奈川県茅ヶ崎市菱沼海岸	死亡	漂着	1	2.5 m	-	オス	1, 24, 25
58*	2021/3/10	神奈川県三浦市三崎町小網代	死亡	漂着	1	1.498 m	-	メス	41
ツチケジラ <i>Berardius bairdii</i>									
59	1987/7/24	神奈川県三浦市諸磯湾岩場	生存→死亡3放流1	マス・ストランディング	4	10.5, 8.3 m	-	メス1	1, 2, 25, 32, 33
60	1993/7/30	神奈川県三浦市南下浦町毘沙門海岸	死亡	漂着	1	9.7 m	-	-	1, 25
61	2002/7/3	千葉県安房郡富山町大房岬沖 西北西3 km(現南房総市)	死亡	漂流→漂着	1	約10 m	-	-	1, 24, 25
62	2005/6/6	東京都大島町大島沖東約18 km▲	生存	目視情報	5	-	-	-	1, 25
63	2005/7/27	神奈川県横須賀市長井5丁目25地先	生存→死亡	漂着	1	10.4 m	推定12.5 t	オス	1, 24, 25, 36
64	2006/7/3	千葉県安房郡鋸南町勝山海岸	死亡	漂着	1	約10 m	-	オス	1, 24, 25
65	2006/7/3	千葉県南房総市富浦西浜海岸	死亡	漂着	1	約10 m以上	-	オス	1, 24, 25
66	2008/6/28	静岡県下田市白浜尾ヶ崎ウイング下	死亡	漂着	1	7-8 m	-	オス	1, 25
ハブスオウギハクジラ <i>Mesoplodon carlhubbsi</i>									
67	2005/10/21	神奈川県中郡二宮町中村川河口	生存→死亡	漂着	1	5.2 m	-	オス	1, 24, 25, 36
イチヨウハクジラ <i>Mesoplodon ginkgodens</i>									
68	1957/9/22	神奈川県中郡大磯町大磯海岸	生存→死亡(捕獲)	漂着	1	4.72 m ^{※1, 25} 約5 m ^{※34}	-	オス	1, 25, 34
69	1968/8/23	神奈川県鎌倉市材木座海岸	-	漂着	1	4.7 m	-	オス	1, 25, 34
70	1971/7/28	静岡県伊東市▲	-	-	1	4.77 m	-	オス	1, 25
71	1974/9/19	千葉県館山市砂浜	生存→死亡	漂着	1	4.95 m	-	オス	1, 25
72	1982/8/3	千葉県富津市竹岡漁港	生存→飼育	港内迷入→漂着	1	5.28 m ^{※1} 5.30 m ^{※25}	1700 kg	メス	1, 25
73	1991/3/23	神奈川県三浦市三崎町小網代	生存→死亡	漂着	1	4.87 m	-	メス	1, 5, 25, 32, 34
74	1994/12/3	千葉県館山市北条海岸	生存→死亡	湾内迷入→放流→漂着	1	5.1 m	-	オス	1, 25
75	2001/3/8	神奈川県横須賀市西浦賀町4 シティマリーナベラシス	死亡	漂着	1	3.12 m	327.3 kg	メス	1, 17, 25
76	2008/8/10	静岡県賀茂郡南伊豆町	生存→死亡	漂着	1	4.675 m	-	オス	1, 25
77	2019/5/30	千葉県館山市北条海岸	死亡	漂着	1	-	-	オス	31
78	1958/1/28	神奈川県三浦市三崎	-	漂着	1	5.74 m	-	オス	1, 25, 34

表 1. 続き 3

事例	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典
アカボウケジラ <i>Ziphius cavirostris</i>									
79	1960/3/3	東京都大島町差木地	生存→死亡(捕獲)	マス・ストランディング	2	8, 10 m	2.2, 2.7 t	オス1、 メス1	1, 25
80	1963/3/11	神奈川県小田原市網一色	生存→死亡(捕獲)	マス・ストランディング	1	5-6 m	-	メス	1, 25
81	1963/3/12	神奈川県藤沢市辻堂海岸	生存→死亡(捕獲)	マス・ストランディング	3	3.5, 5.5, 6.0 m	-	オス1、 メス2	1, 25, 34
82	1963/3/12	神奈川県平塚市海岸	死亡	マス・ストランディング	1	-	-	-	1, 25
83	1963/5/16	神奈川県横須賀市横須賀港	-	迷入	1	-	-	-	34
84	1963/9/22	神奈川県平塚市海岸	生存→死亡	漂着	1	2.67 m	-	オス	1, 25, 34
85	1964/2/6	神奈川県茅ヶ崎市 柳島海岸・中崎海岸	死亡	マス・ストランディング	2	6, 5 m	-	オス1、 メス1	1, 27
86	1966/9/1	神奈川県三浦郡葉山町	生存→死亡	マス・ストランディング	2	-	-	-	1, 28
87	1969/3/16	静岡県伊東市宇佐美海岸	生存→死亡	漂着	1	約6 m	-	-	25
88	1971/9/20	神奈川県小田原市早川海岸	生存→死亡(捕獲)	漂着	1	4 m	2000 kg	-	1, 27
89	1977/1/11	神奈川県小田原市石橋海岸	死亡	漂着	1	5.5 m	5000 kg	メス	1, 27
90	1977/1/11	神奈川県足柄下郡真鶴町岩海岸	死亡	漂着	1	-	-	オス	1, 27
91	1978/1/25	静岡県熱海市赤根崎	生存→死亡	マス・ストランディング	5	オスの1頭 5.48 m	-	オス	1, 25
92	1978/1/25	静岡県熱海市長浜	生存→死亡	マス・ストランディング	2	-	-	-	1, 25
93	1978/1/25	静岡県熱海市中野	生存→死亡	マス・ストランディング	1	-	-	-	1, 25
94	1978/1/25	静岡県熱海市伊豆山	生存→死亡	マス・ストランディング	1	-	-	-	1, 25
95	1978/5/0	神奈川県平塚市花水川河口	死亡	漂着	1	約5 m	-	-	1, 25
96	1978/6/14	神奈川県小田原市	-	漂着	1	-	-	オス	1, 28
97	1979/1/17	神奈川県小田原市早川海岸	生存→死亡	マス・ストランディング	13	3.5-5 m	-	-	1, 25, 34
98	1981/7/7	神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎海岸	死亡	漂着	1	約5 m※1, 27 5.5 m※34	-	オス	1, 27, 34
99	1985/3/24	神奈川県小田原市東町海岸	死亡	漂着	1	5.5 m	-	-	1, 27, 34
100	1987/10/19	神奈川県鎌倉市坂之下海岸	死亡	漂着	1	4.4 m	推定1 t	メス	1, 2, 25, 34
101	1988/5/6	神奈川県平塚市沖▲	死亡	漂流	1	推定5-6 m	-	-	1, 3, 25, 34
102	1989/2/21	神奈川県中郡二宮町前川海岸	生存→死亡	マス・ストランディング	3	5.8 m	-	メス1	1, 4, 25, 34
103	1995/1/10	神奈川県小田原市東町2-10-26地先 山王網一色海岸	死亡	漂着	1	4.85 m	-	-	1, 25
104	1995/2/22	神奈川県小田原市石橋海岸	死亡	漂着	1	約5 m	-	-	1, 8, 25

表 1. 続き 4

事例	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典
アカボウケジラ <i>Ziphius cavirostris</i>									
105	1996/6/13	神奈川県中郡大磯町国府新宿海岸	死亡	漂着	1	5.47 m	-	メス	1, 9, 25
106	1997/8/8	神奈川県横須賀市秋谷海岸	死亡	漂着	1	4.2 m	-	メス	1, 11, 25
107	2015/9/12	千葉県館山市北条海岸	生存→死亡	漂着	1	4 m	-	-	1, 24, 28
108	2021/5/29	静岡県熱海市伊豆山伊豆山漁港	生存→死亡	港内迷入→漂着	1	5.49 m	2000 kg	メス	1
スナメリ <i>Neophocaena asiaeorientalis</i>									
109	1934/5/2	千葉県富津市岩瀬沖1.5マイル	生存	目視情報	20	1.8 m以上	-	-	1, 28
110	1963/5/16	神奈川県横須賀市横須賀港	生存→死亡	迷入	1	0.69 m	5.5 kg	オス	1, 25
111	1966/6/29	神奈川県鎌倉市七里ガ浜	死亡	漂着	1	約1.5 m	-	オス	1, 31
112	1969/6/15	神奈川県逗子市海岸▲	-	-	1	0.8 m	-	オス	33
113	1970/3/18	神奈川県横須賀市鴨居、観音崎沖	生存	目視情報	8	-	-	-	1, 25, 34
114	1985/11/26	神奈川県横須賀市 久里浜港発電所取水口付近	生存	港内迷入	1	-	-	-	1, 25, 34
115	1987/5/31	神奈川県横須賀市 横須賀港臨海公園沖	生存	迷入	1	-	-	-	1, 25, 34
116	1988/12/14	神奈川県藤沢市 鵜沼海岸1丁目沖約150 m	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25, 34
117	2003/7/4	神奈川県三浦市南下浦町毘沙門	死亡	漂着	1	-	-	-	31
118	2004/7/21	千葉県富津市沖約5 km▲	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
119	2013/3/23	神奈川県鎌倉市腰越1丁目4 恵風園胃腸病院下	死亡	漂着	1	約1.8 m	-	-	1, 26, 40
120	2013/5/9	神奈川県横須賀市津久井2丁目	死亡	漂着	1	約0.8 m	-	オス	1, 26, 40
121	2015/4/24	神奈川県横須賀市鴨居 観音崎大橋下	死亡	漂着	1	1.268 m	-	オス	1, 28
122	2016/5/3	神奈川県横須賀市秋谷 久留和漁港の外縁	死亡	漂流	1	-	-	-	1, 29
123	2019/5/10	神奈川県三浦市三崎町 城ヶ島684-2地先	死亡	漂着	1	-	-	-	31
ネズミイルカ <i>Phocoena phocoena</i>									
124*	1970/3/17	神奈川県江の島定置	生存→飼育	混獲(定置網)	1	1.51 m	-	オス	41
125	1973/2/1	千葉県安房郡鋸南町	生存→飼育	混獲(定置網)	1	1.25 m	30 kg	オス	1, 25
126	1987/11/9	千葉県安房郡富山町 (現南房総市)	死亡	混獲(定置網)	1	1.39 m	42 kg	メス	1, 25
127	1995/1/8	千葉県安房郡富山町岩井 (現南房総市)	生存→飼育	混獲(定置網)	1	約1.8 m	-	メス	1, 25

表1. 続き5

事例	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典
イシイルカ <i>Phocoenoides dalli</i>									
128	2005/5/21	千葉県富津市湊上総湊海岸北	死亡	漂着	1	2.13 m	-	オス	1, 24, 25
種不明									
129	2002/3/30	東京都大島町元町御神火温泉下	死亡	漂着	1	4.59 m	-	メス	1, 19, 25
130	2002/7/20	東京都大島町差木地苗	死亡	漂着	1	3.85 m	-	-	1, 19, 25
131	2010/6/18	千葉県館山市平砂浦海岸	生存→放流	漂着	1	2.5 m以上	-	-	1, 25
東京湾									
マッコウクジラ <i>Physeter macrocephalus</i>									
132	1991/1/20	神奈川県横浜市中区 横浜港本牧埠頭	死亡	漂流	1	11.6 m	-	オス	1, 5, 34
133	2008/12/3	神奈川県横浜須賀町東逸見町1丁目 海上自衛隊浮桟橋	死亡	漂流	1	10.9 m	-	-	1, 24, 25
コマッコウ <i>Kogia breviceps</i>									
134	1927/9/30	千葉県習志野市鷺沼	生存→死亡(捕獲)	漂着	1	-	-	オス	1, 25
135	2000/5/30	神奈川県横浜市中区磯子町 堀割川河口横浜市民ヨットハーバー	生存→死亡	港内迷入	1	3.06 m	375.4 kg	オス	1, 16, 25
136	2008/11/4	神奈川県横浜市中区磯子1 海の見える公園地先	生存→死亡	港内迷入	1	-	-	-	1, 25
ハッブスオウギハクジラ <i>Mesoplodon carlhubbsi</i>									
137	2009/10/21	東京都大田区羽田空港東岸	死亡	漂着	1	4.9 m	-	オス	1, 24, 25
スナメリ <i>Neophocaena asiaeorientalis</i>									
138	1935/4/3	東京都北区志茂 荒川放水路岩淵水門	生存→死亡	河川迷入	1	2.3 m	-	-	1, 31
139	1970/5/2	千葉県市原市沖	生存	目視情報	4	-	-	-	1, 29
140	1970/5/2	千葉県木更津市沖約10 km	生存	目視情報	8	-	-	-	1, 29
141	1973/6/27	神奈川県川崎市川崎区 扇島沖1 km▲	-	-	1	0.715 m	-	メス	34
142	1982/5/15	神奈川県横浜市中区本牧▲	-	-	1	1.625 m	-	メス	34
143	1983/3/30	神奈川県横浜市中区錦町▲	-	-	1	0.797 m	-	メス	34
144	1986/6/0	千葉県千葉市美浜区磯部	死亡	漂着	1	-	-	-	1, 29
145	2003/7/15	千葉県浦安市千鳥	死亡	漂着	1	-	-	-	1, 21, 25
146	2003/10/4	千葉県川崎人工島-富津岬間	生存	目視情報	2	-	-	-	1, 22, 25
147	2004/6/26	千葉県船橋市潮見町40 ふなばし三番瀬海浜公園	死亡	漂着	1	0.8 m	-	メス	1, 24, 25
148	2005/2/15	千葉県君津市沖約1 km	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25

表 1. 続き 6

事例	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典
スナメリ <i>Neophocaena asiaeorientalis</i>									
149	2005/6/0	千葉県美浜区検見川の浜	死亡	漂着	1	-	-	-	30
150	2006/5/28	千葉県船橋市潮見町40 ふなばし三番瀬海浜公園	死亡	漂着	1	0.8 m	-	-	1, 24, 25
151	2006/5/30	神奈川県横浜市中区本牧埠頭 三菱重工横浜製作所ドック	生存→飼育	港内迷入	1	0.84 m	8.4 kg	メス	1, 25, 38
152	2006/7/1	千葉県千葉市美浜区高浜7丁目 稲毛海浜公園いながの浜	死亡	漂着	1	約2 m	-	メス	1, 26
153	2006/11/6	東京都江戸川区 東京ディズニージュンパー沖2 km	生存	目視情報	2	-	-	-	1, 25
154	2007/7/20	千葉県浦安市 浦安灯台南東約3マイル	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
155	2007/7/20	千葉県浦安市浦安灯台南東沖	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
156	2007/8/11	千葉県浦安市沖約2 km	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
157	2007/10/22	千葉県浦安市千鳥 浦安灯台南沖約1.3マイル	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
158	2008/1/11	千葉県市原市市原埠頭沖	生存	目視情報	2	-	-	-	1, 25
159	2008/3/11	東京都江東区若洲沖南3 km	生存	目視情報	4	-	-	-	1, 25
160	2008/11/17	千葉県浦安市新浦安沖	生存	目視情報	2	-	-	-	1, 25
161	2008/12/11	千葉県浦安市浦安南沖	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
162	2009/4/22	千葉県浦安市浦安南沖	生存	目視情報	2	-	-	-	1, 25
163	2009/9/10	千葉県千葉市美浜区高浜 稲毛海浜公園沖	生存	目視情報	2	-	-	-	1, 25
164	2010/9/1	千葉県浦安市浦安南東沖	生存	目視情報	4	-	-	-	1, 25
165	2010/9/23	千葉県市原市姉ヶ崎沖約3 km	生存	目視情報	4	-	-	-	1, 25
166	2010/10/15	千葉県船橋航路東	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25
167	2010/11/6	千葉県荒川河口東京港 東航路4番ブイ東	生存	目視情報	3	-	-	-	1, 25
168	2011/2/8	神奈川県横須賀市走水1丁目2	死亡	漂着	1	約1.5 m	-	オス	1, 24, 25, 35, 38, 40
169	2011/6/6	千葉県富津市富津岬北側沖～ 東電富津火力発電所	生存	目視情報	3	推定1-2 m	-	-	1, 25
170	2011/9/20	神奈川県横浜市区八景島 湾内岸壁	死亡	漂着	1	1.33 m	-	メス	1, 24, 25, 40
171	2011/12/5	千葉県木更津市金田沖2.3 km	生存→放流	混獲(海苔養殖網)	1	-	-	-	1, 25
172	2012/10/6	千葉県浦安市沖	生存	目視情報	1	-	-	-	1, 25

表 1. 続き 7

事例	年/月/日	場所	生死	状況	個体数	体長	体重	性別	出典
スナメリ <i>Neophocaena asiaeorientalis</i>									
173	2014/5/11	東京都大田区 羽田空港D滑走路沖	生存	目視情報	2	-	-	-	1, 27
174	2016/5/22	神奈川県横須賀市田浦港	生存	港内迷入	1	-	-	-	1, 29
175	2017/5/22	千葉県千葉市美浜区美浜 幕張の浜	死亡	漂着	1	-	-	-	30
176	2017/10/26	千葉県船橋市 船橋航路2番ブイ南側	生存	目視情報	7	-	-	-	30
177	2017/11/3	東京都隅田川	生存	河川迷入	2	-	-	-	1, 30
178	2018/5/7	千葉県千葉市美浜区高浜7-2 稲毛海浜公園地先	死亡	漂着	1	約0.85 m	-	-	1, 31
179	2018/5/7	千葉県習志野市谷津干潟	死亡	漂着	1	1.9 m	-	メス	1, 31
180	2018/5/12	千葉県市原市沖	生存	目視情報	2	-	-	-	1, 31
181	2019/8/24	千葉県千葉市美浜区美浜 幕張の浜	死亡	漂着	1	推定0.8 m	-	-	1
182	2020/2/25	千葉県千葉市中央区千葉港沖	生存	目視情報	3	-	-	-	1
183	2021/3/14	千葉県千葉市中央区千葉港沖	死亡	漂着	1	0.84 m	-	メス	1
イシイルカ <i>Phocoenoides dalli</i>									
184	1994/10/31	神奈川県横浜市中区 宝町横浜港	生存	港内迷入	2	-	-	-	1, 7, 25, 34
185	1998/4/2	東京都港区お台場海浜公園	生存	港内迷入	2	約1.5 m	-	-	1, 13, 25

出典: 1. 国立科学博物館, online; 2. 日本鯨類研究所 (1988a); 3. 日本鯨類研究所 (1988b); 4. 日本鯨類研究所 (1989); 5. 日本鯨類研究所 (1991); 6. 日本鯨類研究所 (1994a); 7. 日本鯨類研究所 (1994b); 8. 日本鯨類研究所 (1995); 9. 日本鯨類研究所 (1996); 10. 日本鯨類研究所 (1997a); 11. 日本鯨類研究所 (1998a); 12. 日本鯨類研究所 (1998b); 13. 日本鯨類研究所 (1998c); 14. 日本鯨類研究所 (2003a); 15. 日本鯨類研究所 (1999); 16. 日本鯨類研究所 (2000); 17. 日本鯨類研究所 (2001); 18. 日本鯨類研究所 (2002a); 19. 日本鯨類研究所 (2002b); 20. 日本鯨類研究所 (2003a); 21. 日本鯨類研究所 (2003b); 22. 日本鯨類研究所 (2003c); 23. 日本鯨類研究所 (2004); 24. 日本鯨類研究所 (online); 25. 石川ほか (2013); 26. 石川 (2014); 27. 石川 (2015); 28. 石川 (2016); 29. 石川 (2017); 30. 石川 (2018); 31. 石川 (2019a); 32. 山田・磯貝 (1992); 33. 鴨川シーワールド (1992); 34. 中村ほか (1994); 35. Ohkubo *et al.* (2011); 36. 樽 (2006); 37. 崎山ほか (2011); 38. 樽 (2011); 39. 三井ほか (2014); 40. Suzuki *et al.* (2015); 41. 本報告.

※: それぞれの番号の出典元に記載されていた数値.

事例 *: 新知見.

▲: 場所が特定できず、図 1-10 に記せなかった記録.

期はほぼ周年確認され、最も多かった月は1月6例、次いで12月5例であった。

コマッコウ

Kogia breviceps de Blainville, 1838

(図2:表1-4)

本種は国際自然保護連合(IUCN)レッドリストカテゴリーでは、低危惧種(Least Concern)に選定されている(IUCN, online)。世界の温帯および熱帯の海域に広く分布し、暖かい海の沖合、特に大陸斜面の近くでよく見られる(ジェファソンほか, 1993)。日本近海では、北海道より南の太平洋と日本海の両方で見られている(国立科学博物館, online)。目撃情報のほとんどが1~数個体で(Caldwell & Caldwell, 1989)、個体群の規模や傾向は不明である(McAlpine, 2018)。

本種の記録は相模湾に18例、東京湾に3例であった。記録時期は1月、2月、6月、10月を除きほぼ周年確認されたが、7、8月を合わせると10例、次いで3、4月を合わせると5例と春季と夏季に多い傾向があった。

オガワコマッコウ

Kogia sima Owen, 1866

(図2:表1-4)

本種は国際自然保護連合(IUCN)レッドリストカテゴリーでは低危惧種(Least Concern)に選定されている(IUCN, online)。主に全海域の温帯・熱帯沿岸の大陸棚や斜面に生息し(石川ほか, 2013)、日本近海では北海道南部の太平洋側と新潟県南部から座礁が記録されている(石川ほか, 2013)。しかし通常ではより南に分布しており、和歌山沖では夏季にホエールウォッチングで本種が時折目撃されており、(Yoshioka, 2015a)。目撃情報のほとんどは2-10個体の小さな集団である(Nagorsen, 1985)。

本種の記録は相模湾にのみ6例確認され、10月から2月は記録がなかった。なお、事例番号56は国立科学博物館など主たるデータベースでは、コマッコウと扱われていたが、三井ほか(2014)より本種として記録した。

ツチクジラ

Berardius bairdii Stejneger, 1883

(図3:表1-4)

本種は国際自然保護連合(IUCN)レッドリストカテゴリーでは、低危惧種(Least Concern)に選定されている(IUCN, online)。北太平洋の温暖から寒冷の温帯地域、主に大陸棚斜面の深部に生息しており、5月から8月までの夏季に日本の太平洋沿岸に出現する(Yamada, 2015a)。日本近海では北緯34度の太平洋北部と北緯36度の日本海北部で確認されている(Nishimura, 1970; Nishiwaki & Oguro, 1971; Balcomb, 1989; Kasuya &

Miyashita, 1997)。日本周辺では、群密度と季節移動の違いから、太平洋、日本海、オホーツクの3つの異なる個体群の存在が示唆されている(Kasuya, 1986)。集団の大きさは1-30個体の範囲で、ほとんどは2-9個体である(Kasuya, 2002)。またオスの方がメスよりも寿命が長い、ため、成獣集団ではより多くのオスがみられる(Yamada, 2015a)。

本種の記録は相模湾のみ8例、記録時期は6、7月のみに見られた。

ハブスオウギハクジラ

Mesoplodon carlhubbsi Moore, 1963

(図3:表1-4)

本種は国際自然保護連合(IUCN)レッドリストカテゴリーでは、情報不足種(Data Deficient)に選定されている(IUCN, online)。北太平洋の固有種である。日本で記録された17個体の漂着個体はすべて本州と北海道の太平洋側で記録されている(Mead *et al.*, 1982)。ツチクジラよりも温帯を好むようである(Yamada, 2015c)。ほとんどの情報が漂着個体からのものであり、生存時の行動についてはほとんど知られていない(Yamada, 2015c)。

本種の記録は相模湾、東京湾にそれぞれ1例であった。記録時期はいずれも10月であった。

イチョウハクジラ

Mesoplodon ginkgodens Nishiwaki & Kamiya, 1958

(図3:表1-4)

本種は国際自然保護連合(IUCN)レッドリストカテゴリーでは、情報不足種(Data Deficient)に選定されている(IUCN, online)。太平洋とインド洋の熱帯および温帯海域に分布している。ときおり日本列島の沖縄から茨城にかけての太平洋側に座礁し、記録の約50%が静岡県、神奈川県、および千葉県の沿岸で占められるが、例外として北海道の室蘭での記録が1例ある(小川, 1936; Nishiwaki & Kamiya, 1958; Nishiwaki *et al.*, 1972; 鴨川シーワールド, 1992; 石川, 1994; 中村ほか, 1994; 中島ほか, 2005)。また本種の生息域や季節移動などはほとんど知られていない(Yamada, 2015e)。

本種の記録は相模湾からのみで10例で、記録時期に目立った季節性は見られなかった。

アカボウクジラ

Ziphius cavirostris G. Cuvier, 1823

(図4:表1-4)

本種は国際自然保護連合(IUCN)レッドリストカテゴリーでは、低危惧種(Least Concern)に選定されている(IUCN, online)。本種はアカボウクジラ科で最も広く分布している種の一つで、極地を除くすべての海

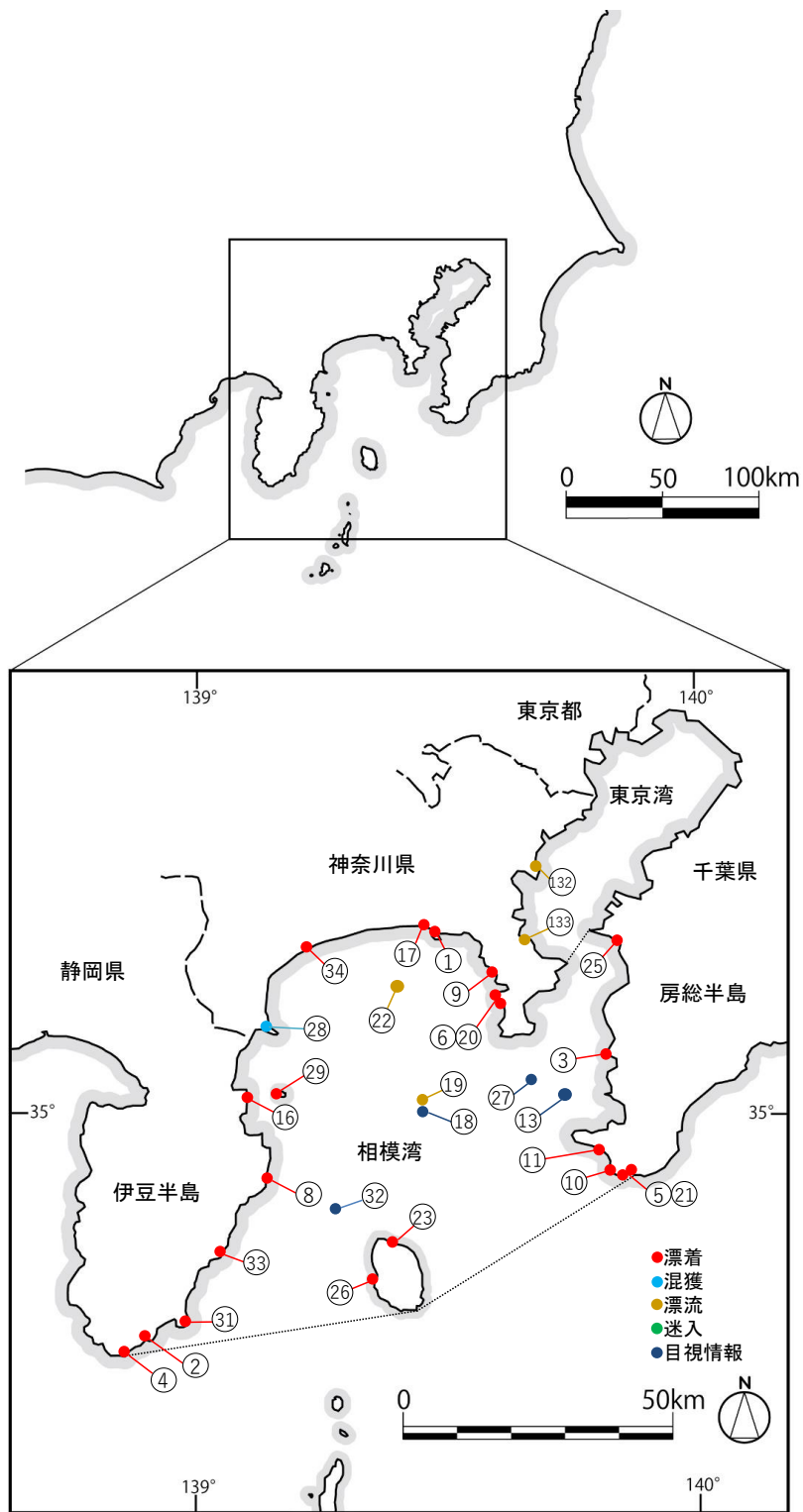


図 1. 相模湾・東京湾におけるマッコウクジラ *Physeter macrocephalus* (●) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

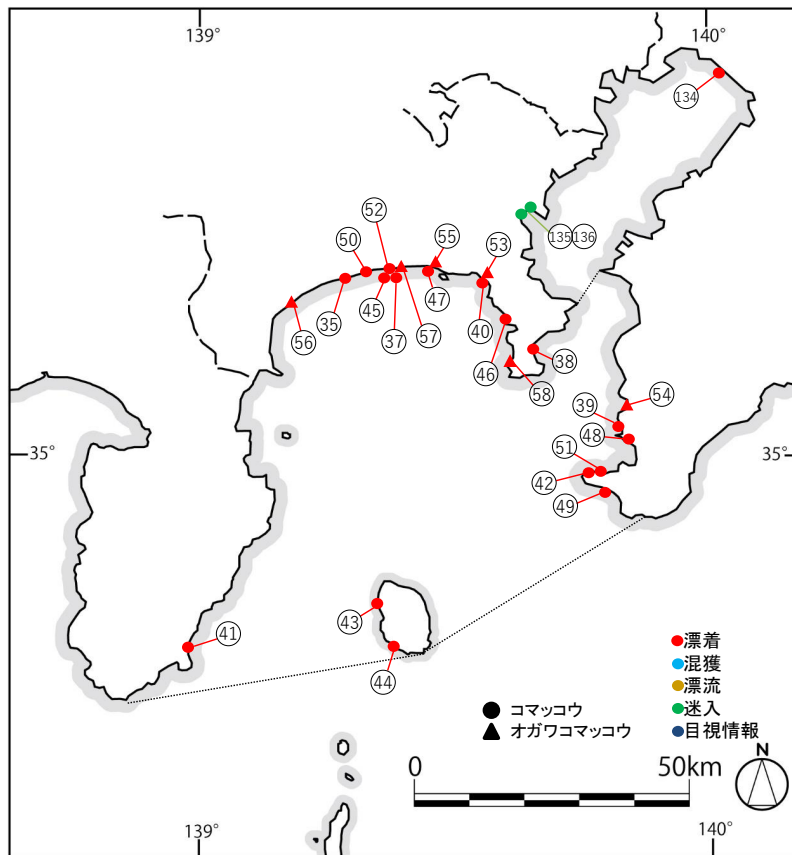


図 2. 相模湾・東京湾におけるコマッコウ *Kogia breviceps* (●), オガワコマッコウ *Kogia sima* (▲) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応)。

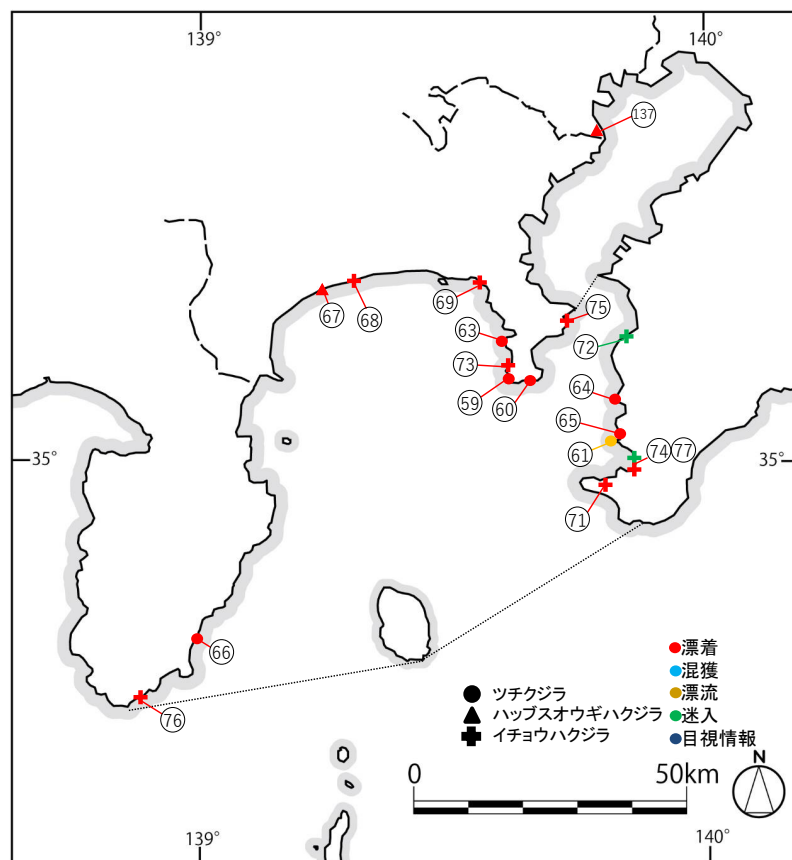


図 3. 相模湾・東京湾におけるツチクジラ *Berardius bairdii* (●), ハップスオウギハクジラ *Mesoplodon carlhubbsi* (▲), イチョウハクジラ *Mesoplodon ginkgodens* (+) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応)。

域で記録されている (Yamada, 2015g)。日本列島沿岸での座礁は、主に太平洋側で報告されている (Omura *et al.*, 1955; Nishiwaki & Oguro, 1972)。本種は定期的に 48–68 分間、800 m (最大 1,450 m) を超える深さまで潜水する (Yamada, 2015g)。2–7 頭の小さなグループで発見されるが、1 頭だけで見られることも珍しくない (ジェファソンほか, 1993)。

本種の記録は、相模湾からのみで 31 例であった。記録時期は 4, 12 月を除き周年見られた。

スナメリ

Neophocaena asiaeorientalis Pilleri & Gühr, 1972

(図 5: 表 1–4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは、危急種 (Vulnerable species) に選定されている (IUCN, online)。最大でも体長 2 m 程度の小型ハクジラである。台湾海峡から中国北部、韓国、日本の海域、揚子江の中・下流域を含む西太平洋の温帯沿岸水域に分布している (Jefferson & Wang, 2011)。日本沿岸域は生息範囲の東端に位置している。本種は有明海–橘湾、大村湾、瀬戸内海–響灘、伊勢湾–三河湾、仙台湾–東京湾の 5 沿岸海域に分布している (Shirakihara & Yoshioka, 2015)。単独、2 頭あるいは多くて 12 頭までのグループで発見されることが多いが、最大で 50 頭の集団も報告されている (ジェファソンほか, 1993)。現在、日本ではシロナガスクジラ *Balaenoptera musculus*、ホッキョククジラ *Balaena mysticetus* およびコククジラ *Eschrichtius robustus* とともに水産資源保護法によって保護されており、1993 年以降は一切の採捕および保持が禁止されている (Suzuki *et al.*, 2015)。

本種の記録は相模湾で 15 例、東京湾で 46 例、記録時期は周年報告があるものの 5 月に 17 例と 27.9 % を占めた。これまでに相模湾および東京湾の沿岸で記録のある鯨類の中で最も記録が多く、特に東京湾での記録が多かった。

また、ミトコンドリア DNA の塩基配列の違いより、事例番号 168, 120, 170 の 3 個体は仙台湾–東京湾の東京湾よりの海域に分布する集団と伊勢湾–三河湾にまたがって分布する集団にみられる遺伝子の型と同じであり (Ohkubo *et al.*, 2011; 樽, 2011)、事例番号 119 は伊勢湾–三河湾特有の遺伝子の型と同じであったことより、もともと伊勢湾–三河湾に生息しており相模湾へ回遊してきた個体としている (Ohkubo *et al.*, 2011; Suzuki *et al.*, 2015)。今後も地域個体群の動態について、ストランディングなどで得られる資料からさらに解析されることが期待される。

ネズミイルカ

Phocoena phocoena Linnaeus, 1758

(図 6: 表 1–4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは、低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。北半球の温帯から亜寒帯沿岸に分布している (Bjørge & Tolley, 2009)。この範囲の中で、生息域は大陸棚の水域に限定されている (Read, 1999)。日本近海では千葉県および石川県以北の本州北部沿岸並びに北海道沖でよく確認され (天野, 1996; 日本鯨類研究所, online), 7–16℃ の水域での目撃情報がある (笠松・宮下, 1991)。本種は群れることはなく、単独または少数個体でよく目視される (Amano, 2015)。これらの集団は一時的なものであり、餌の集中している場所では数十から数百頭の本種の大きな集団が見られることがある (Read, 1999)。

相模湾、東京湾は本種の分布域縁辺となるが (Amano, 2015)、本種の記録は相模湾にのみ 4 例、1 月、2 月、3 月、11 月にそれぞれ 1 例と秋と冬に記録された。また、1995 年以降記録されていない。

イシイルカ

Phocoenoides dalli True, 1885

(図 6: 表 1–4)

本種は国際自然保護連合 (IUCN) レッドリストカテゴリーでは、低危惧種 (Least Concern) に選定されている (IUCN, online)。北太平洋北部と隣接する海 (ベーリング海、オホーツク海、日本海) の固有種である (Yoshioka, 2015b)。日本では千葉県以北の太平洋側と島根県以北の日本海側に生息している (Miyashita & Kasuya, 1988)。肛門から背ビレまで広がる体側の白いパッチが小さいイシイルカ型 (*dalli*-type) と、胸鰭の前まで広がる体側の白いパッチが大きいリクゼンイルカ型 (*truei*-type) の 2 つの体色形態がある (Yoshioka, 2015b)。さらにイシイルカ型個体群には日本海側個体群と北西北太平洋側個体群の 2 つの個体群があり、体側の白いパッチの大きさが異なる (前者のパッチの方が小さい) (Amano & Miyazaki, 1996; Amano *et al.*, 2000)。よって、本種はリクゼンイルカ型とイシイルカ型の 2 つの体色型があり、さらにイシイルカ型には 2 タイプあることから、計 3 亜種が存在すると考えられている (Amano & Hayano, 2007)。イシイルカ型は、日本近海沿岸から北米大陸沿岸まで分布し、3 月に南下し太平洋側では 3 月に房総沖でも確認されている (宮下, 2003)。リクゼンイルカ型は三陸沖からオホーツク海にかけてのみ分布し、房総沖辺りが南限と推測される (Miyashita & Kasuya, 1988)。また、本種は多くの場合単独または複数の小さな個体群で確認される (Yoshioka, 2015b)。

相模湾、東京湾は本種の分布域縁辺であるが (Yoshioka, 2015b)、本種の記録は相模湾 1 例 (リクゼンイルカ型)、東京湾 2 例 (イシイルカ型) であった。記録時期は 4, 10 月にイシイルカ型 (事例番号 184, 185)、5 月にリクゼンイルカ型 (事例番号 128) がそれぞれ 1 例ずつ確認された。なお、本種は 1998 年以降記録されていない。

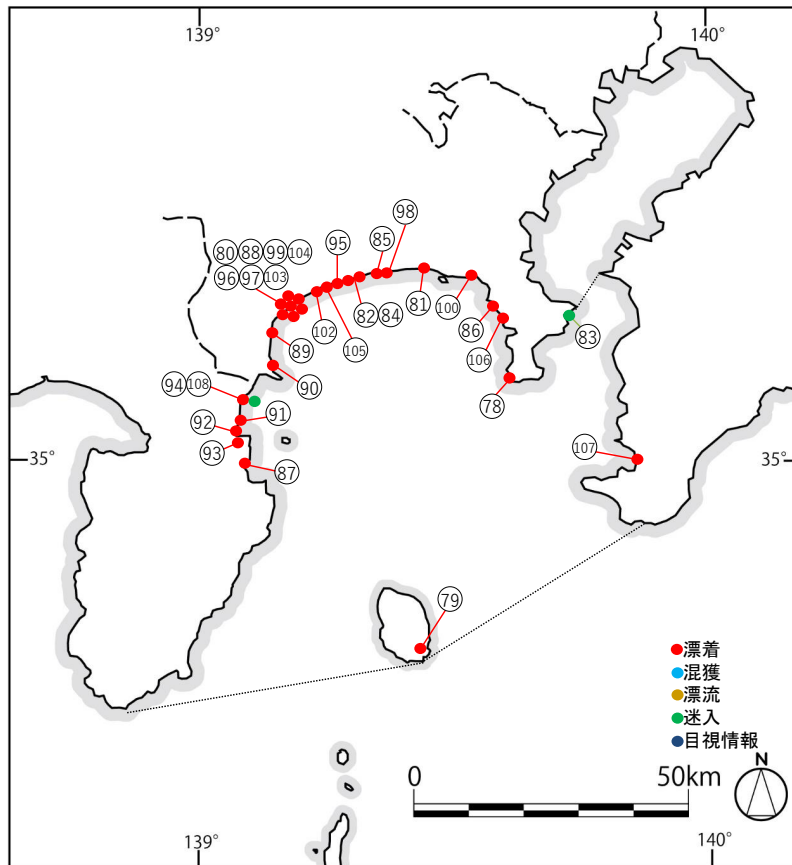


図 4. 相模湾・東京湾におけるアカボウクジラ *Ziphius cavirostris* (●) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

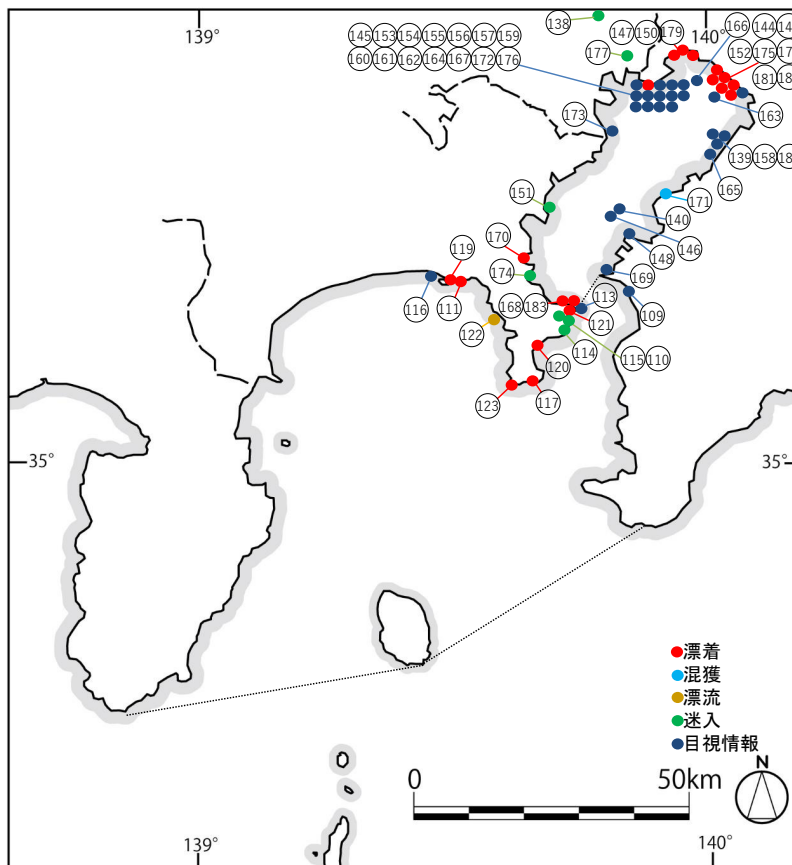


図 5. 相模湾・東京湾におけるスナメリ *Neophocaena asiaeorientalis* (●) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

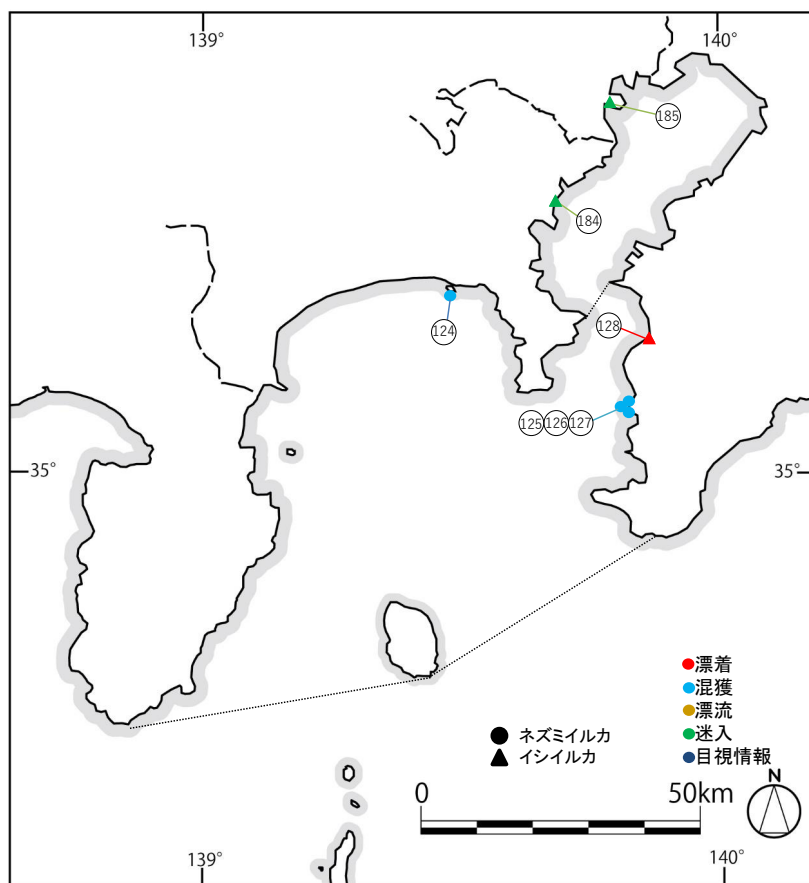


図 6. 相模湾・東京湾におけるネズミイルカ *Phocoena phocoena* (●) イシイルカ *Phocoenoides dalli* (▲) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

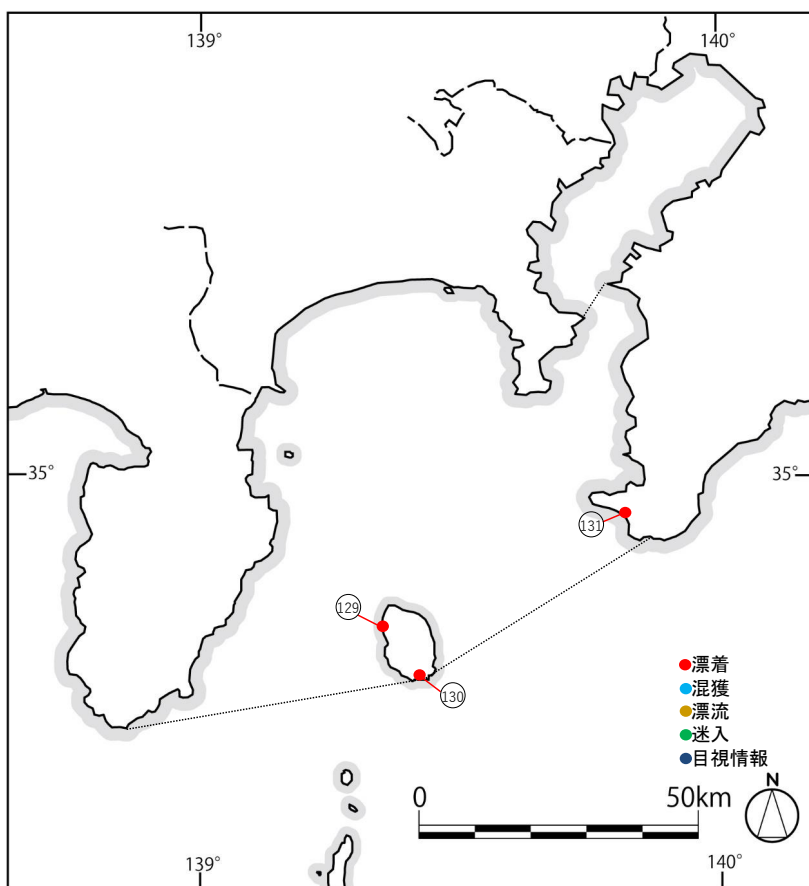


図 7. 相模湾・東京湾における種不明鯨類 (●) の記録された場所 (番号は表 1 の事例番号に対応).

表 2. 相模湾・東京湾におけるハクジラ亜目の記録

	和名	学名	相模湾	記録	東京湾	記録	計
1	マッコウクジラ	<i>Physeter macrocephalus</i>	○	34	○	2	36
2	コマッコウ	<i>Kogia breviceps</i>	○	18	○	3	21
3	オガワコマッコウ	<i>Kogia sima</i>	○	6	-	-	6
4	ツチクジラ	<i>Berardius bairdii</i>	○	8	-	-	8
5	ハッブスオウギハクジラ	<i>Mesoplodon carlhubbsi</i>	○	1	○	1	2
6	イチョウハクジラ	<i>Mesoplodon ginkgodens</i>	○	10	-	-	10
7	アカボウクジラ	<i>Ziphius cavirostris</i>	○	31	-	-	31
8	スナメリ	<i>Neophocaena asiaeorientalis</i>	○	15	○	46	61
9	ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>	○	4	-	-	4
10	イシイルカ	<i>Phocoenoides dalli</i>	○	1	○	2	3
11	種不明	-	○	3	-	-	3
	計			131		54	185

表 3. 相模湾・東京湾におけるハクジラ亜目の月別の記録数

	和名	学名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1	マッコウクジラ	<i>Physeter macrocephalus</i>	6	2	4	3	3	3	4	1	3	2	0	5	36
2	コマッコウ	<i>Kogia breviceps</i>	0	0	1	4	1	0	6	4	2	0	2	1	21
3	オガワコマッコウ	<i>Kogia sima</i>	0	0	3	0	0	1	1	0	1	0	0	0	6
4	ツチクジラ	<i>Berardius bairdii</i>	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	8
5	ハッブスオウギハクジラ	<i>Mesoplodon carlhubbsi</i>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
6	イチョウハクジラ	<i>Mesoplodon ginkgodens</i>	0	0	2	0	1	0	1	3	2	0	0	1	10
7	アカボウクジラ	<i>Ziphius cavirostris</i>	8	3	6	0	4	2	1	1	4	1	1	0	31
8	スナメリ	<i>Neophocaena asiaeorientalis</i>	1	3	5	3	17	7	6	2	4	5	5	3	61
9	ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
10	イシイルカ	<i>Phocoenoides dalli</i>	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
11	種不明	-	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
	計		16	9	23	11	27	16	26	11	16	11	9	10	185

表 4. 相模湾・東京湾におけるハクジラ亜目の発見時の状況

	和名	学名	漂着	混獲	漂流	迷入	目視情報	不明	計
1	マッコウクジラ	<i>Physeter macrocephalus</i>	22	1	4	0	9	0	36
2	コマッコウ	<i>Kogia breviceps</i>	18	0	0	2	0	1	21
3	オガワコマッコウ	<i>Kogia sima</i>	6	0	0	0	0	0	6
4	ツチクジラ	<i>Berardius bairdii</i>	6	0	1	0	1	0	8
5	ハッブスオウギハクジラ	<i>Mesoplodon carlhubbsi</i>	2	0	0	0	0	0	2
6	イチョウハクジラ	<i>Mesoplodon ginkgodens</i>	7	0	0	2	0	1	10
7	アカボウクジラ	<i>Ziphius cavirostris</i>	28	0	1	2	0	0	31
8	スナメリ	<i>Neophocaena asiaeorientalis</i>	19	1	1	7	29	4	61
9	ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>	0	4	0	0	0	0	4
10	イシイルカ	<i>Phocoenoides dalli</i>	1	0	0	2	0	0	3
11	種不明	-	3	0	0	0	0	0	3
	計		112	6	7	15	39	6	185

考 察

1927 年 9 月から 2021 年 9 月までに、相模湾、東京湾沿岸で記録されたマッコウクジラ科、コマッコウ科、アカボウクジラ科、およびネズミイルカ科のハクジラ亜目の鯨類は、相模湾で 4 科 7 属 10 種、東京湾で 4 科 5 属 5 種、両湾を合わせると 4 科 8 属 10 種であった。

日本近海に分布するハクジラ亜目の鯨類は、前報（花上ほか, 2021）でとり上げたマイルカ科以外にはマッコウクジラ科、コマッコウ科、アカボウクジラ科、ネズミイルカ科、イッカク科 *Monodontidae* の 5 科があり、5 科 10 属 15 種が記録されている（粕谷, 2011）。これらのうち、イッカク科以外の 4 科 8 属 10 種（約 66.7 %）が相模湾と東京湾で記録されていることが明らかとなった。記録の多い順にスナメリ（61 例）、マッコウクジラ（36 例）、アカボウクジラ（31 例）、コマッコウ（21 例）で、それ以外の種は 10 例以下であり、東京湾でのスナメリの記録が特に多かった（表 2）。

本報告では調査捕鯨や商業捕鯨などの記録は除外しているが、川島（1894）、粕谷（2011）は伊豆半島沿岸で捕獲されていた、あるいは近海に分布する鯨種をまとめており、マッコウクジラとツチクジラの 2 種が本報告の記録種に含まれていた。これらの種は、川島（1894）の報告当時にも相模湾近海に來遊、生息していたものと考えられた。また、本調査海域外ではあるが、千葉県和田浦（外房）に

は 400 年の歴史をもつツチクジラの捕鯨基地があり（小島, 2012）、2015 年度は 6 月 20 日から 8 月末までツチクジラ操業を行っており 14 頭捕獲している（石川, 2019b）。

相模湾、東京湾で記録の無かった 5 種のうち、シロイルカ *Delphinapterus leucas* とイッカク *Monodon monoceros* は今後も相模湾および東京湾に出現する可能性は低いと考えられるが、タイヘイヨウアカボウモドキ *Indopacetus pacificus*、コブハクジラ *M. densirostris*、オウギハクジラ *M. stejnegeri* は、同様にその分布から、今後相模湾および東京湾でも記録される可能性があると考えられる。（Yamada, 2015b, 2015d, 2015f）。

ストランディングの発生は、それぞれ相模湾が 131 件（70.8 %）、東京湾が 54 件（29.2 %）であった（表 2）。地域別で見ると、神奈川県沿岸 86 例（46.5 %）、千葉県沿岸 63 例（34.1 %）、静岡県沿岸 18 例（9.7 %）、伊豆大島を含む東京都沿岸 18 例（9.7 %）であった（図 1-7）。全体をまとめてみると伊豆半島から三浦半島沿岸にかけてと房総半島西側の鋸南町以南、東京湾内で多く確認された（図 8）。ヒゲクジラ亜目（加登岡ほか, 2020）やハクジラ亜目のマイルカ科（花上ほか, 2021）と異なり相模湾北西部の大磯から小田原辺りにも多くストランディングが発生していた。これは、本報告で扱ったマイルカ科以外のハクジラ亜目は、マッコウクジラやアカボウクジラなど大型の種が多く、ストランディングをした際に目立つ上、大型のため波に流されにくく発見されやすい

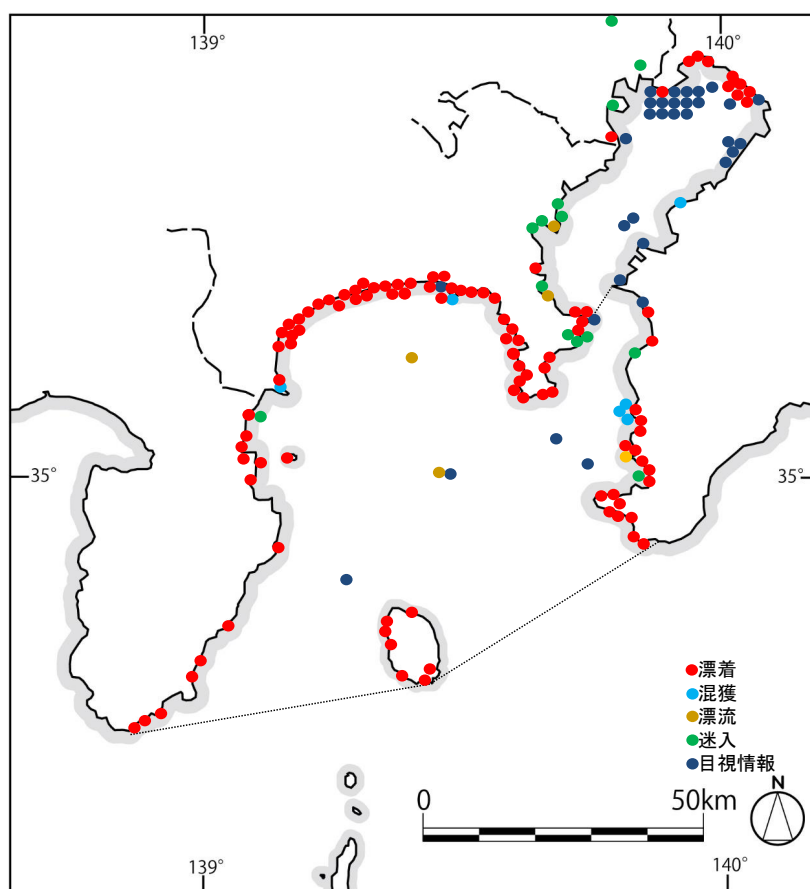


図 8. 相模湾・東京湾におけるハクジラ亜目の記録された場所。

可能性があることによるものと考えられた。また前2報に比べて東京湾での記録が多いのはスナメリの影響によるものである。

記録された時期：5月が27例と最も多く、次いで7月が26例であった（表3）。5月に関しては石川（2003）の太平洋側の漂着月別件数と類似した結果となった（図11）。また、5月の記録である27例のうちスナメリが17例と63.0%を占めた（表3）。詳細なデータがあるスナメリ8個体のうち、5個体が体長69-85cmであり、新生子であることが示唆され（岩月、2000）、よってスナメリは5-6月に繁殖期を迎え、新生子の漂着が増加するとした石川（2003）の報告と類似した。7月はコマッコウ、ツチクジラ、スナメリが多く確認された。

発生時の状況：漂着が最も多く、相模湾、東京湾合わせて112例（60.5%）、次いで目視情報39例（21.1%）、迷入15例（8.1%）、漂流7例（3.8%）、混獲6例（3.2%）であった（表4、図12）。本報告で漂着（漂流、迷入、目視情報を含む）記録が19例以上あった種のうち、個体を発見した時の生存率はスナメリ（67.9%）、コマッコウ（65.0%）、アカボウクジラ（48.4%）、マッコウクジラ（31.4%）であり、コマッコウとアカボウクジラは石川（2003）と類似した結果となった。

記録された個体数：単独個体が138例（74.6%）、複数個体が44例（23.8%）、個体数不明3例（1.6%）であった。複数個体の記録が多い種として、スナメリ20例、

アカボウクジラ8例、マッコウクジラ6例であった。複数個体44例中6例が10個体以上確認され、5例が目視情報によるもので、うち4例がマッコウクジラであった。また最大が事例番号25のマッコウクジラによるもので、30個体の目視情報事例であった。アカボウクジラとマッコウクジラは、本報告において漂着時の生存率が30%以上であり、暖海の外洋種やマス・ストランディング（集団座礁）を起こしやすい種の生存率が比較的高いという石川（2003）の報告と一致した。

スナメリ：今回の一連の調査の中で最も調査海域と分布海域が重なる種である。ストランディング発生位置は相模湾が15例（24.6%）、東京湾が46例（75.4%）とほとんどが東京湾での記録であり、一連の調査内で最も特徴的な結果となった（表2）。さらに東京湾での記録のうち、目視例が25例（54.3%）と目視情報が半数を超えた。古くから東京湾での生息が知られており、横須賀沖では漂着や目視の記録があり（中島、1963; 石川、1994）、本報告でもスナメリの発見時に生存していた37例のうち30例が東京湾であり、ヘリコプターによる上空からや船上からの目視情報も多く確認されていることから、発見時の生存率が高かったと考えられた（図9、10）。

これまで全国の鯨類の記録は、国立科学博物館、日本鯨類研究所、下関海洋アカデミー鯨類研究室等により蓄積されてきた。本報告では、それらのデータや既存の報告をもとに、相模湾および東京湾におけるハクジラ亜目

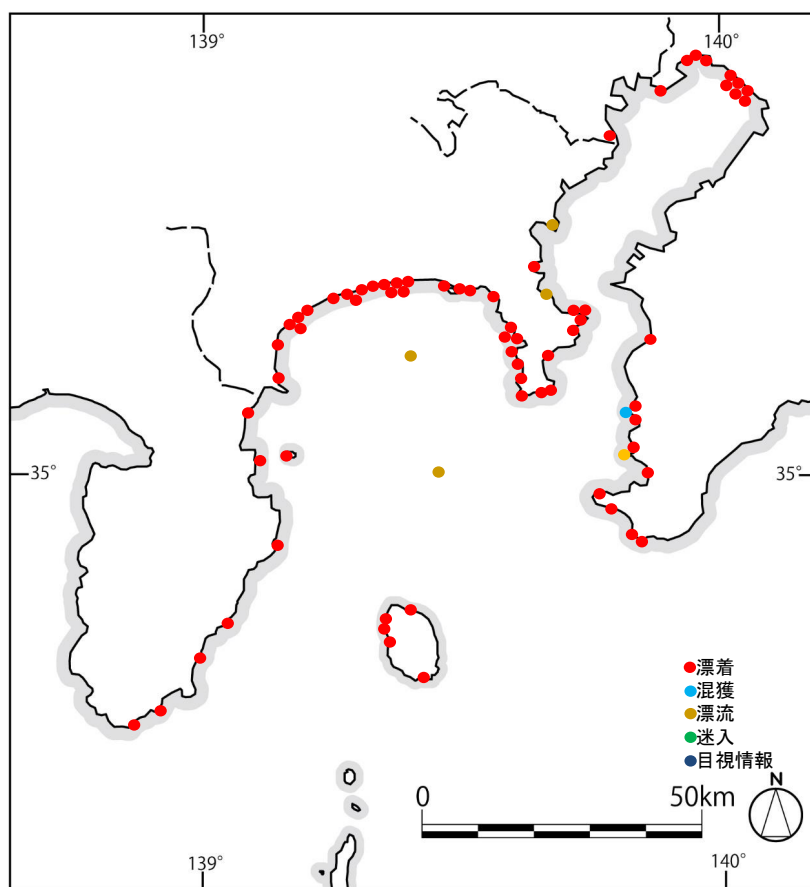


図9. 相模湾・東京湾における死亡した状態で発見されたハクジラ亜目の記録された場所。

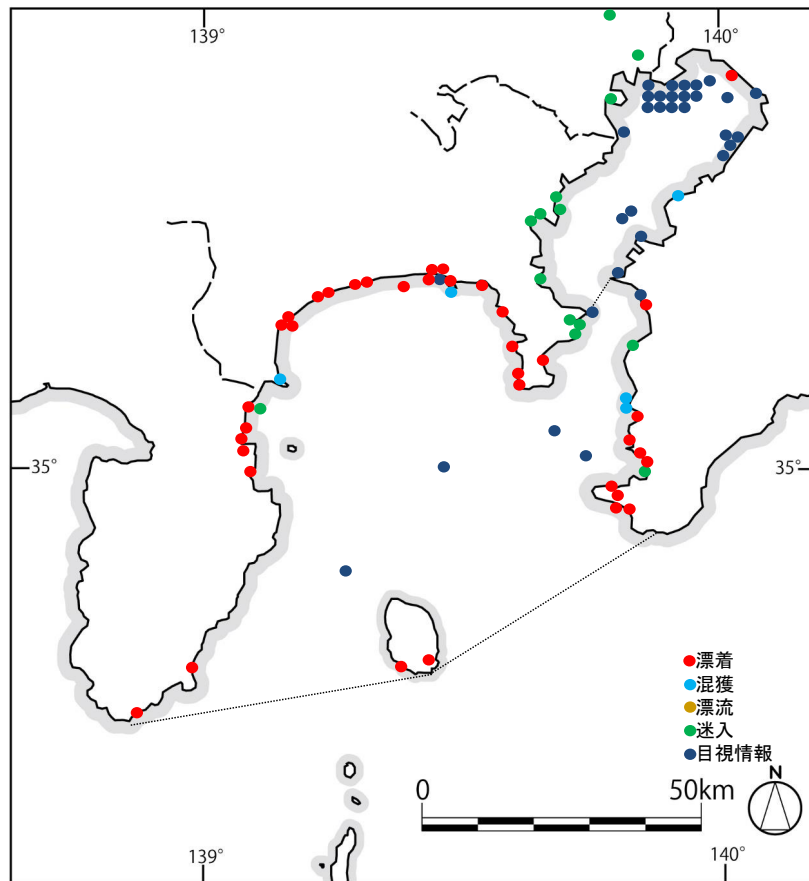


図 10. 相模湾・東京湾で生存した状態で発見されたハクジラ垂目の記録された場所。

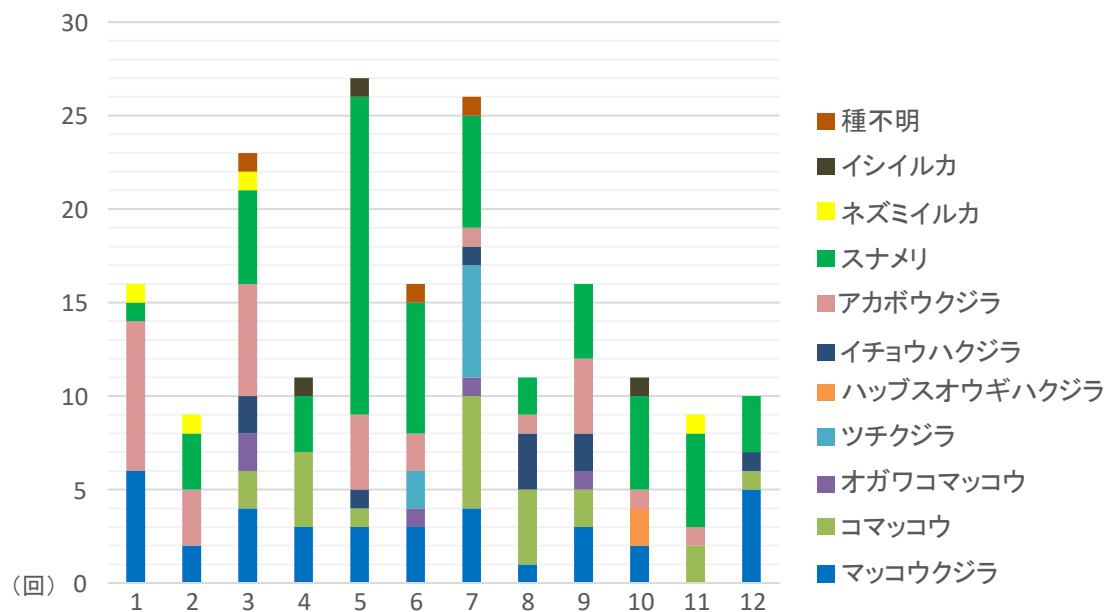


図 11. 相模湾・東京湾におけるハクジラ垂目の月別の記録数。

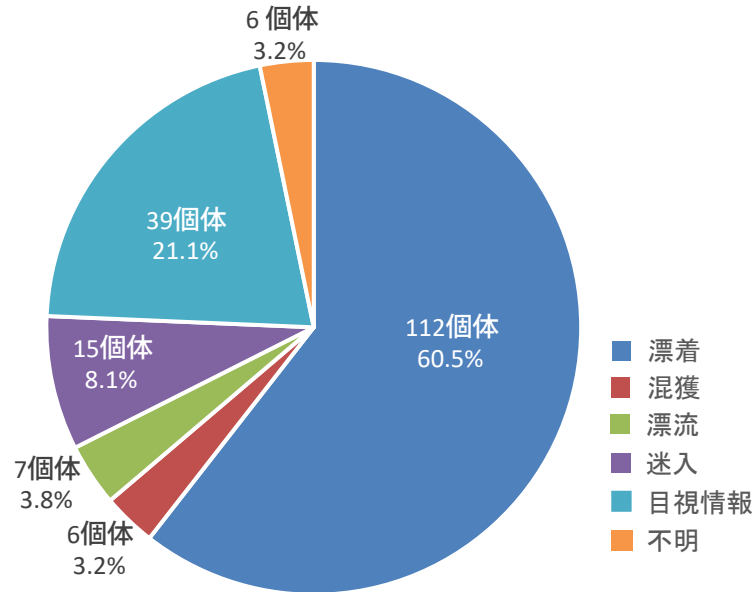


図 12. 相模湾・東京湾におけるハクジラ垂目のストランディング発生の状況。

マッコウクジラ科，コマッコウ科，アカボウクジラ科，およびネズミイルカ科の記録を集計した。筆者らは，加登岡ほか（2020），花上ほか（2021），および本報告をあわせた 3 編で，相模湾と東京湾における鯨目 Cetacea のヒゲクジラ垂目およびハクジラ垂目の記録を集計してきた。これにより，国内で確認されている鯨目 9 科 27 属 44 種のうち，相模湾で 8 科 24 属 34 種（77.3 %），東京湾で 7 科 15 属 20 種（45.5 %），両湾を合わせると計 8 科 26 属 35 種（79.5 %）の記録があったことが明らかになった。

地域の水族館および博物館として生物の出現状況記録を把握することは，今後同海域で調査研究を行う際の基礎材料として有用であると考えられ，局所的な分布域や生態，地域特性を知ることができ，また経年的変化も見えてくる可能性がある。さらに，地域の自然環境の特性を見出して一般市民に周知することは，地域の生物および自然環境や博物館の活動に対する社会的理解を深めるため，各地域の水族館や博物館が取り組むべき課題であるとする。今後は他の海域との比較検討等も進めていきたい。

謝 辞

ストランディングデータを提供していただいた観音崎自然博物館学芸部長の山田和彦氏，日本鯨類研究所，神奈川県ストランディングネットワーク，報告の機会を与えていただいた新江ノ島水族館の堀 一久氏をはじめ展示飼育部の諸氏，英文要旨作成にご助言をくださった大山卓司氏に感謝の意を表す。また原稿改訂に有益な助言をくださった査読者の方と編集委員会の皆様に対して

心より御礼申し上げる。

引用文献

- 天野雅男，1996. ネズミイルカ. 水産庁編，日本の希少な野生生物に関する基礎資料 (III)，pp. 340–348. 水産資源保護協会，東京.
- Amano, M., 2015. *Phocoena phocoena* (Linnaeus, 1758). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), The wild mammals of Japan, 2nd edition, pp. 400–401. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Amano, M. & A. Hayano, 2007. Intermingling of dalli-type Dall's porpoises into a wintering truei-type population off Japan: implications from color patterns. *Marine Mammal Science*, **23**: 1–14.
- Amano, M., M. Marui, T. Guenther, H. Ohizumi & N. Miyazaki, 2000. Re-evaluation of geographic variation in the white flank patch of dalli-type Dall's porpoises. *Marine Mammal Science*, **16**: 631–636.
- Amano, M., & N. Miyazaki, 1996. Geographic variation in external morphology of Dall's porpoise, *Phocoenoides dalli*. *Aquatic Mammals*, **22**: 167–174.
- Balcomb, K. C., 1989. Baird's beaked whale *Berardius bairdii* Stejneger, 1883 & Arnoux's beaked whale *Berardius arnuxii* Duvernoy, 1851. In Ridgway, S. H. & R. Harrison (eds.), Handbook of marine mammals, Vol. 4: river dolphins and the larger toothed whales, pp. 261–288. Academic Press, London.
- Björge, A. & K. A. Tolley, 2009. Harbor porpoise *Phocoena phocoena*. In Perrin, W. F., B. Wursig & J. G. M. Thewissen (eds.), Encyclopedia of marine mammals, 2nd edition, pp. 549–551. Academic Press. San Diego.
- Caldwell, D. K. & M. C. Caldwell, 1989. Pygmy sperm whale *Kogia breviceps* (de Blainville, 1838) & dwarf sperm whale *Kogia simus* Owen, 1866. In Ridgway, S. H. & R. Harrison (eds.), Handbook of marine mammals, Vol. 4: river dolphins and the larger toothed whales, pp. 235–260. Academic Press, London.
- 花上諒大・崎山直夫・加登岡大希・鈴木 聡・石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創，2021. 相模湾・東京湾沿岸で記録されたハ

- クジラ亜目マイルカ科について. 神奈川自然誌資料, (42): 1-21.
- 石川 創編, 1994. 日本沿岸のストランディングレコード (1901 ~ 1993). 鯨研叢書 6. 94 pp. 日本鯨類研究所, 東京.
- 石川 創, 2003. 日本海の鯨類のストランディングレコード (改訂). 哺乳類科学, Supplement, 3: 87-91.
- 石川 創編, 2014. ストランディングレコード (2013 年収集). 下関鯨類研究所報告, (2): 25-26.
- 石川 創編, 2015. ストランディングレコード (2014 年収集). 下関鯨類研究室報告, (3): 32-34.
- 石川 創編, 2016. ストランディングレコード (2015 年収集). 下関鯨類研究室報告, (4): 42-45.
- 石川 創編, 2017. ストランディングレコード (2016 年収集). 下関鯨類研究室報告, (5): 37-40.
- 石川 創編, 2018. ストランディングレコード (2017 年収集). 下関鯨類研究室報告, (6): 53-55.
- 石川 創編, 2019a. ストランディングレコード (2018-2019 年収集). 下関鯨類研究室報告, (7): 27-68.
- 石川 創, 2019b. 日本の小型捕鯨業の歴史と現状. 国立民族学博物館調査報告, (149): 129-152.
- 石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘編, 2013. ストランディングレコード (1901-2012). 下関鯨類研究室報告, (1): 6-83.
- IUCN, online. The IUCN Red List of threatened species. <https://www.iucnredlist.org/> (accessed on 2021-September-1).
- 岩月智映, 2000. 日本のスナメリ個体群 - 漂着記録の解析. 三重大学生物資源科学部海洋生産学コース卒業論文. 11 pp.
- ジェファソン (Jefferson, T. A.), レザウッド (S. Leatherwood) & ウェバー (M. A. Webber), 1993. FAO species identification guide. Marine mammals of the world. 山田 格訳, 1999. 海の哺乳類 FAO 種同定ガイド, 336 pp. NTT 出版株式会社, 東京.
- Jefferson, T. A., & J. Y. Wang, 2011. Revision of the taxonomy of finless porpoises (genus: Neophocaena): the existence of two species. *Journal of Marine Animals and Their Ecology*, (4): 3-16.
- 鴨川シーワールド, 1992. 海獣類の漂着記録. 鴨川シーワールド編, 鴨川シーワールド報告 I 業績集 1970-1991, pp. 347-349. 鴨川シーワールド, 鴨川.
- 笠松不二男・宮下富夫, 1991. 鯨とイルカのフィールドガイド, 148 pp. 東京大学出版会, 東京.
- Kasuya, T., 1986. Distribution and behavior of Baird' s beaked whales off the Pacific coast of Japan. *Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (37): 61-83.
- Kasuya, T., 2002. Giant Beaked Whales. In Perrin, W. F., B. Wursig & J. G. M. Thewissen (eds.), *Encyclopedia of marine mammals*, pp. 519-522. Academic Press, San Diego.
- 粕谷俊雄, 2011. イルカ: 小型鯨類の保全生物学, 640 pp. 東京大学出版会, 東京.
- Kasuya, T. & T. Miyashita, 1988. Distribution of sperm whale stocks in the North Pacific. *The Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (39): 31-75.
- Kasuya, T. & T. Miyashita, 1997. Distribution of Baird' s beaked whales off Japan. *Report of the International Whaling Commission*, (47): 963-968.
- 加登岡大希・崎山直夫・石川 創・山田 格・田島木綿子・樽 創, 2020. 相模湾・東京湾沿岸で記録されたヒゲクジラ亜目 (Mysticeti) について. 神奈川自然誌資料, (41): 83-93.
- 川島瀧蔵, 1894. 静岡県水産誌. 巻 1: 144 丁; 巻 2: 91 丁; 巻 3: 203 丁; 巻 4: 181 丁. 静岡県漁業組合取締所, 静岡.
- 小島孝夫, 2012. 千葉県和田浦の小型捕鯨業の現状と課題 - 鯨食文化の継承をめぐる. 岸上伸啓編, 捕鯨の文化人類学, pp. 187-206. 成山堂書店, 東京.
- 国立科学博物館, online. 海棲哺乳類ストランディングデータベース. <http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/mammal/drift/index.php> (accessed on 2021-September-1).
- McAlpine, D. F., 2018. Pygmy and dwarf sperm whales *Kogia breviceps* and *K. sima*. In Wursig, B., J. G. M. Thewissen & K. M. Kovacs (eds.), *Encyclopedia of marine mammals*, 3rd edition, pp. 786-788. Academic Press, San Diego, CA.
- Mead, J. G., W. A. Walker & W. J. Houck, 1982. Biological observation on *Mesoplodon carlhubbsi* (Cetacea: Ziphiidae). *Smithsonian Contributions to Zoology*, (344): 1-25.
- 三井翔太・大泉 宏・樽 創, 2014. 相模湾に漂着したカマイルカおよびオガワコマッコウの胃内容物. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (43): 7-21.
- 宮下富夫, 2013. イシイルカの資源とその動態に関する研究. 東京海洋大学博士学位論文. 91 pp.
- Miyashita, T. & T. Kasuya, 1988. Distribution and abundance of Dall' s porpoise off Japan. *The Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (39): 121-150.
- Mori, K., M. Yoshioka & M. Amano, 2015. *Physeter macrocephalus* (Linnaeus, 1758). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition, pp. 344-345. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Nagorsen, D., 1985. *Kogia simus*. *Mammalian Species*, (239): 1-6.
- 中島将行, 1963. スナメリの迷子. 鯨研通信, (147): 193-196.
- 中島将行・前嶋謙次・香山 薫・徳武浩司・古田 彰, 2005. オウギハクジラ属 2 種 4 例の座礁・迷入記録. 動物園水族館雑誌, (46): 97-109.
- 中村一恵・山口佳秀・平田寛重・浜口哲一, 1994. 神奈川県沿岸産哺乳類目録. 神奈川自然誌資料, (16): 1-9.
- 日本鯨類研究所, 1988a. ストランディング・レコードー 9. 鯨研通信, (372): 7-8.
- 日本鯨類研究所, 1988b. ストランディング・レコードー 11. 鯨研通信, (374): 44.
- 日本鯨類研究所, 1989. ストランディング・レコードー 13. 鯨研通信, (376): 7-10.
- 日本鯨類研究所, 1991. ストランディング・レコードー 17. 鯨研通信, (381): 17-18.
- 日本鯨類研究所, 1994a. ストランディング・レコード: 1994 年 1 月 ~ 8 月. 鯨研通信, (383): 17-18.
- 日本鯨類研究所, 1994b. ストランディング・レコード: 1994 年 9 月 ~ 11 月. 鯨研通信, (384): 18.
- 日本鯨類研究所, 1995. ストランディング・レコード: 1994 年 12 月 ~ 1995 年 6 月受付. 鯨研通信, (386): 17-18.
- 日本鯨類研究所, 1996. ストランディングレコード (1995 年 12 月 ~ 1996 年 2 月受付). 鯨研通信, (389): 21-22.
- 日本鯨類研究所, 1997a. ストランディングレコード (1996 年 11 月 ~ 1997 年 2 月受付). 鯨研通信, (393): 23-24.
- 日本鯨類研究所, 1997b. ストランディングレコード (1997 年 8 月 ~ 10 月受付). 鯨研通信, (396): 22.
- 日本鯨類研究所, 1998a. ストランディングレコード (1997 年 11 月 ~ 1998 年 3 月受付). 鯨研通信, (397): 28-30.
- 日本鯨類研究所, 1998b. ストランディングレコード (1998 年 4 月 ~ 5 月受付). 鯨研通信, (398): 25-28.
- 日本鯨類研究所, 1998c. ストランディングレコード (1998 年 6 月 ~ 8 月受付). 鯨研通信, (399): 26-28.
- 日本鯨類研究所, 1999. ストランディングレコード (1999 年 2 月 ~ 5 月受付). 鯨研通信, (403): 19-24.
- 日本鯨類研究所, 2000. ストランディングレコード (2000 年 4 月 ~ 7 月). 鯨研通信, (407): 21-28.
- 日本鯨類研究所, 2001. ストランディングレコード (2001 年 3 月 ~ 2001 年 5 月受付). 鯨研通信, (410): 24-28.
- 日本鯨類研究所, 2002a. ストランディングレコード (2001 年 11 月 ~ 2002 年 2 月受付). 鯨研通信, (413): 21-26.
- 日本鯨類研究所, 2002b. ストランディングレコード (2002 年 5 月 ~ 8 月受付). 鯨研通信, (415): 30-38.
- 日本鯨類研究所, 2003a. ストランディングレコード (2003 年 3 月 ~ 5 月受付). 鯨研通信, (418): 24-30.
- 日本鯨類研究所, 2003b. ストランディングレコード (2003 年 6 月 ~ 8 月受付). 鯨研通信, (419): 26-32.

- 日本鯨類研究所, 2003c. ストランディングレコード (2003 年 9 月 ~ 11 月受付). 鯨研通信, (420): 21–24.
- 日本鯨類研究所, 2004. ストランディングレコード (2003 年 12 月 ~ 2004 年 2 月受付). 鯨研通信, (421): 15–18.
- 日本鯨類研究所, online. 鯨類ストランディング (座礁・漂着・漂流・迷入)・定置網混獲: ストランディングした鯨について. ストランディングレコードデータ, 1996~2015 年. <https://www.icrwhale.org/zasho2.html> (accessed on 2021-September-1).
- Nishimura, S., 1970. Recent record of baird's beaked whale in the Japan Sea. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **18**: 61–68.
- Nishiwaki, M. & T. Kamiya, 1958. A beaked whale *Mesoplodon* stranded at Oiso Beach, Japan. *The Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (13): 53–83.
- Nishiwaki, M., T. Kasuya, K. Kureha & N. Oguro, 1972. Further comments on *Mesoplodon ginkgodens*. *The Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (24): 43–56.
- Nishiwaki, M. & N. Oguro, 1971. Baird's beaked whales caught on the coast of Japan in recent 10 years. *The Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (23): 111–122.
- Nishiwaki, M. & N. Oguro, 1972. Catch of the Cuvier's beaked whales off Japan in recent years. *The Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (24): 35–41.
- 小川鼎三, 1936. 本邦の齒鯨目録に加ふべき 4 属 (講演要旨). *Zoological Magazine*, **48**: 175.
- Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui & T. Saitoh, 2015. The wild mammals of Japan, 2nd edition. xxvi+511 pp. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Ohkubo, M., H. Taru & A. Shimizu, 2011. Record of a finless porpoise stranded at Hashirimizu Bay, Yokosuka, facing Tokyo Bay. DNA 鑑定, **3**: 83–87.
- Omura, H., K. Fujino & S. Kimura, 1955. Beaked whale *Berardius bairdi* of Japan with notes on *Ziphius cavirostris*. *The Scientific Reports of the Whales Research Institute*, (10): 89–132.
- Read, A. J., 1999. Harbour porpoise *Phocoena phocoena* (Linnaeus, 1758). In Ridgway, S. H. & R. Harrison (eds.), *Handbook of marine mammals*, Vol. 6: the second book of dolphins and the porpoises, pp. 323–355. Academic Press, San Diego.
- Rice, D. W., 1989. Sperm whale *Physeter macrocephalus* Linnaeus, 1758. In Ridgway, S. H. & R. Harrison (eds.), *Handbook of marine mammals*, Vol. 4: river dolphins and the larger toothed whales, pp. 177–233. Academic Press, San Diego.
- 崎山直夫・萩原清司・村石健一, 2011. 横須賀市笠島に漂着したコマッコウ (クジラ目: コマッコウ科) について. 横須賀市博物館研究報告 (自然), (58): 43–45.
- 崎山直夫・鈴木 聡・石井雅之・藤原克則・加登岡大希・樽 創, 2019. 相模湾・東京湾沿岸で記録されたハナゴンドウ (クジラ目: マイルカ科) について. 神奈川自然誌資料, (40): 95–102.
- 佐藤武宏, 2017. 日本の海の自然を詰め込んだ箱庭・相模湾. 自然科学のとびら, 23(3): 22–23.
- Shirakihara, M., M. Yoshioka., 2015. Neophocaena asiaorientalis (Pilleri & Gehr, 1972). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition, pp. 398–399. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- 瀬能 宏・松浦啓一, 2007. 相模湾の魚たちと黒潮: ベルトコンベヤーか障壁か. 国立科学博物館編, 相模湾動物誌, pp. 121–133. 東京大学出版会, 東京.
- Suzuki, M., H. Taru, N. Takai, K. Okutsu, H. Ito, & T. Ishii, 2015. The haplotypes of four finless porpoises stranded on the coast of Sagami Bay and Tokyo Bay during 2011–2013. *Mammal Study*, **40**: 127–132.
- 田島木綿子, 2019. 国内初となるシロナガスクジラ漂着個体の調査概要. 朝日新聞社編, 大哺乳類展 2: みんなの生き残り作戦, pp. 182–188. 朝日新聞社, 東京.
- 樽 創, 2006. 2005 年のストランディングから. 自然科学のとびら, 12(3): 20–21.
- 樽 創, 2011. 東京湾のスナメリ. 自然科学のとびら, 17(3): 24.
- 樽 創・崎山直夫・鈴木 聡・田島木綿子, 2018. 日本に初めて打ち上げられたシロナガスクジラ. 自然科学のとびら, 24(4): 28–29.
- Terasawa, F., T. Yamagami, M. Kitamura & A. Fujimoto, 1997. A pygmy killer whale (*Feresa attenuata*) stranded at Sagami Bay, Japan. *Aquatic Mammals*, **23**(1): 69–72.
- 山田和彦・磯貝高弘, 1992. 三浦半島周辺における鯨類ストランディングレコード. 京急油壺マリンパーク水族館年報, (16): 24–28.
- Yamada, T. K., 2015a. *Berardius bairdii* (Stejneger, 1883). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 350–351. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Yamada, T. K., 2015b. *Indopacetus pacificus* (Longman, 1926). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 352–353. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Yamada, T. K., 2015c. *Mesoplodon carlhubbsi* (Moore, 1963). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 354–355. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Yamada, T. K., 2015d. *Mesoplodon densirostris* (de Blainville, 1817). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 356–357. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Yamada, T. K., 2015e. *Mesoplodon ginkgodens* (Nishiwaki & Kamiya, 1958). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 358–359. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Yamada, T. K., 2015f. *Mesoplodon stejnegeri* (True, 1885). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 360–361. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Yamada, T. K., 2015g. *Ziphius cavirostris* (G. Cuvier, 1823). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 362–363. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Yoshioka, M., 2015a. *Kogia sima* (Owen, 1866). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 348–349. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.
- Yoshioka, M., 2015b. *Phocoenoides dalli* (True, 1885). In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, T. Fukui, & T. Saitoh (eds.), *The wild mammals of Japan*, 2nd edition. pp. 402–403. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, Japan.

鷺見みゆき・花上諒大・崎山直夫: 新江ノ島水族館;
鈴木 聡・樽 創: 神奈川県立生命の星・地球博物館;
石川 創: 株式会社大阪海洋研究所; 山田 格・田島
木綿子: 国立科学博物館

(受領 2021 年 10 月 31 日; 受理 2022 年 2 月 15 日)